

烏帽子会会報

2024年秋号 Vol.77

研究奨励賞
受賞者



FU-OMSA
受賞者



烏帽子会賞
受賞者



医学教育
貢献者賞



研究奨励賞論文抄録

烏帽子会賞受賞の言葉

福岡大学医学部同窓会

目 次

・巻頭言「福岡大学医学部同窓生の輝かしい未来に、烏帽子会は貢献していきます」…	竹 下 盛 重	3
・福岡大学医学部同窓会 第 43 回 烏帽子会総会 報告…	山 田 哲 平	4
・研究奨励賞		
令和 6 年度 研究奨励賞選考報告 …	三 浦 伸一郎	7
令和 6 年度 研究奨励賞受賞者名簿 …		8
・令和 6 年度 受賞論文抄録		
Milk Casein Inhibits Effect of Black Tea Galloylated Theaflavins to Inactivate SARS-CoV-2 In Vitro (論文) …	中 塩 舞衣子	8
Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease :From the FU-CCTA Registry (論文) …	安心院 勇 佑	9
Induction of potassium channel regulator KCNE4 in a submandibular lymph node metastasis model (論文) …	藤 田 潤	9
Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy (論文) …	小 田 大 嘉	10
Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects (論文) …	杉 野 裕 記	10
「PEG 修飾改良型アポ A1 模倣ペプチドの動脈硬化モデルマウスに対する効果とその機序に関する検討」(計画) …	津 留 陸	11
・令和 5 年度 受賞研究計画報告		
経カテーテル的大動脈弁の術後変化に対する multi-imaging modality を用いた検討…	加 藤 悠 太	11
・総会報告 (受賞者) / FU-OMSA 賞状・タイバー授与 …		12
・烏帽子会賞賞状授与 …		16
・学生医学教育貢献者賞 / 令和 7 年度研究奨励賞募集要項 …		17
・令和 5 年度 評議員会議事録 …		18
・教授就任挨拶		
教授就任のご挨拶…	三 嶋 崇 靖	20
・教授退任挨拶		
筑紫病院での 32 年を振り返って…	植 木 敏 晴	21
・学会報告		
第 83 回日本人口学会九州地域部会開催のご報告 …	有 馬 久 富	22
日本高血圧学会 高血圧フォーラム 2024 を終えて …	三 浦 伸一郎	23
第 46 回日本中毒学会総会・学術集会開催報告と御礼「請われれば…」 …	有 吉 孝 一	24
第 30 回日本アフェレンシス学会九州地方会を終えて …	伊 藤 建 二	27
学会報告 …	平 井 郁 仁	28
・在外研修報告		
オーストラリア在外研修報告 …	星 野 耕 大	29
アメリカ在外研修報告 …	岩 下 侑央莉	31
・会員寄稿		
岩崎宏名誉教授瑞宝中綬章受章祝賀会を終えて …	竹 下 盛 重	33
・支部だより		
筑後支部便り …	宿 里 芳 孝	34
宿里芳孝先生の医師会長就任祝賀会 …	浅 倉 敏 明	36
・学生会員支援報告		
新入生歓迎会 …	小 玉 正 太	37
令和 6 年度 M4CBT 激励会の報告 …	北 島 研	38
令和 6 年度 M1 白衣授与式のご報告 …	北 島 研	41
・キャンパス便り		
第 23 回日本内分泌学会九州支部学術集会 若手奨励賞 (YIA) 受賞報告 …	卷 幡 健 介	43
九山柔道部門男子団体戦優勝のご報告 …	小 林 友 輔	44
水泳愛好会 …	瀬 口 絢 士	45
ラグビー部 50 周年記念 OB 総会 …	池 田 耕 一	46
・医学部同窓会諸表…		47
・医局長・医長名簿…		49
・教育職員人事 / 訃報 / 編集後記…		50
・烏帽子会の主な事業…		51

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)

パニックマニュアル専用パスワード

panic



ホームページ用二次元
バーコード

巻頭言

福岡大学医学部同窓生の輝かしい未来に、 烏帽子会は貢献していきます

福岡大学烏帽子会副会長 済生会八幡総合病院 病理診断科 竹下 盛重 (3回生)



皆様、ご活躍のことお喜び申し上げます。3回生の竹下です。小玉正太会長のもと4人の副会長の1名として働いており、2年半が経ちます。私は3年半前まで医学部でM3, M5学生に病態病理学の授業をしておりました。授業では、皆さんは将来地域医療の中心の1人として活躍する人であり、そしてこの中から確実に秀でた能力を発揮してより活躍する方が出てくると言いながら、厳しく、思いやりをもって教鞭をふるってきました。現在は北九州市の病院で、患者様、また医師に対して画像を含め分かり易さを心がけ病理細胞診断を提供しています。大学外から見た烏帽子会は、多くの会員の皆様と同様に私にとってもやはり遠い存在であるが、そんな中で、福岡大学、福岡大学医学部・病院群が少しでもレベルが高くなってほしいと願うことは共通の思いです。その方策としては、医学部充実と共に関連病院・施設の充実がキーになってきますが、現在大学では、朔啓二郎名誉学長のお働きにより2024年春に七隈に、最新の手術ロボットやハイテクを駆使した手術室等が導入された近代化した病院が出来ています。また、2025年1月より福岡大学西新病院の建設がこども病院跡地で始まり、2年後に出来上がります。10年前に新病院となった筑紫病院を含めた病院群では、同窓生を含め全スタッフの方々のご努力により充実した研修が出

来るようになっていきます。同窓の医師の方々はこの病院群で切磋琢磨し、より質の高い医療施設にさせていただき、学部生の教育を進めていってほしいと思います。このような発展段階の医学部・病院群に対して、我々同窓会は、皆様のご援助の基、病院への寄付はもとより、医学生に対し今までに歓迎会、M4, M6年生教育支援、勉学、クラブ優秀者の表彰等数多くの支援を企画してきました。加えて、大学院生への入学援助や若い医師への研究助成等も積極的に行っております。一步進んだ医学部・病院群になることを確信しています。学外では、会長、理事は積極的に烏帽子会支部に赴き、新しい支部も立ち上げ、同窓会活動を支援しています。COVID-19蔓延のため中断していた各支部での支部に合った講演会を促進し、地域の大学や大病院との繋がりや同窓生間の繋がりを緊密にさせていただき、同窓の皆様が各地区で出来る限り充実した医療が展開できるような一助になればと思っております。また、烏帽子会のホームページも充実したものになってきておりますが、この中に将来的には、安全性高い状態の会員名簿、毎年各支部便り、リスキル(後学)のための学内医師による最新医療の講演会や最近のトピックス等をお伝え出来る様にできれば、また違った展開にもなるかもしれませんが、同窓会が行える内容に対しては、皆様のお考えやご提案がありましたら、是非ご一報ください。検討し反映させていただきたいと思っております。烏帽子会活動は諸先生方のご尽力により良い枠組みが出来ておりますが、今後、会長を筆頭に理事一同、今出来る内容を解決し、次世代の方々の仕事しやすい形で引き継ぎしていきたいと思っております。最後になりますが、皆様のご健勝とご発展をお祈りいたします。

2024年11月吉日

総会報告

福岡大学医学部同窓会 第43回 烏帽子会総会 報告

27 回生代表 福岡大学医学部 消化器外科 山田 哲平

昨年、テーマ『団結』のもと第43回烏帽子会総会を開催させて頂き、参加者同志が世代や領域を超え一致団結することが出来ました。

当日は多くの方々にご参加を頂きまして、誠にありがとうございました。

引き続き、福岡大学医学部ならびに同窓会へのご支援のほど、何卒よろしくお願い致します。



27 回生集合写真



総会



総会議長 仲村佳彦 先生



総会司会 山田哲平 先生



総会書記 桑原 豪 先生



小玉正太会長 乾杯



川畑懿子有信会理事長ご挨拶



朔啓二郎名誉学長ご挨拶



27 回生仲村佳彦先生講演



27 回生前田俊樹先生講演



28 回生への幹事引き継ぎ



27 回生の先生方ありがとうございました。/ 28 回生の先生方よろしくお願いします。



万歳



校歌



校歌



校歌



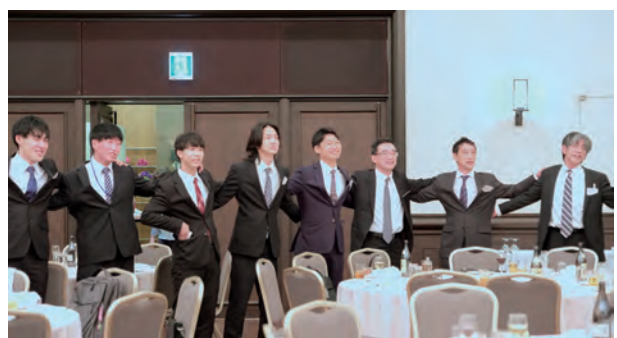
校歌



校歌



校歌



校歌



校歌



校歌

研究奨励賞

令和6年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 三浦 伸一郎 (11 回生)



本年度の研究奨励賞には、研究論文 13 件、研究計画 1 件の合計 14 件の応募がありました。研究論文は、年々、ハイ・インパクトの論文が多数応募され、今回の論文の中でも、インパクトファクターの最高は 6.6 となっており、非常に質の高い論文が多く集っていました。毎年、このように、福岡大学医学部・病院関連の先生方から素晴らしい論文が生み出されていることに改めて感謝申し上げます。

審査員 26 名の採点の合計を踏まえ、ディスカッションを行い、厳正な審査の結果、最終的に 6 名が選出されました。研究論文の中で最優秀賞を獲得したのは、基礎研究論文 “Milk Casein Inhibits Effect of Black Tea Galloylated Theaflavins to Inactivate

SARS-CoV-2 In Vitro”と臨床研究論文 “Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry” の筆頭著者の 2 名で多くの審査員が高評価をしていました。また、研究論文の中から 3 名に優秀賞、研究計画の 1 名には奨励賞が授与されました。受賞者の皆様は、この受賞を糧に、今後も益々研究活動に励んでいただき、更なる素晴らしい業績を残していただければと思っております。また、今回、残念ながら賞から漏れた先生方の論文も素晴らしいものばかりでした。審査員は、インパクトファクターも参考にしますが、どれほどその研究に貢献され、苦勞された結果を報告された論文であるかも重要な判定要因としています。来年も多くの皆様からの応募をお待ちしております。



左から津留先生、杉野先生、小田先生、小玉会長、藤田先生、安心院先生、中塩先生

● 令和6年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学医学部 救命救急医学 福大助教 中 塩 舞衣子 (正会員 39 回生)	Milk Casein Inhibits Effect of Black Tea Galloylated Theaflavins to Inactivate SARS-CoV-2 In Vitro (論文)
福岡大学医学部 心臓・血管内科学 出水総合医療センター 安心院 勇 佑 (正会員 39 回生)	Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease:From the FU-CCTA Registry (論文)
福岡大学医学部 整形外科 福大大学院生 藤 田 潤 (準会員)	Incidence and Clinical outcome of lateral femoral cutaneous nerve injury after periacetabular osteotomy (論文)
福岡大学医学部 整形外科 友愛医療センター 小 田 大 嘉 (正会員 36 回生)	Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy (論文)
福岡大学医学部 整形外科 福大助教 杉 野 裕 記 (準会員)	Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects (論文)
福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大大学院生 津 留 陸 (準会員)	PEG 修飾改良型アポ A1 模倣ペプチドの動脈硬化モデルマウスに対する効果とその機序に関する検討 (計画)

令和6年度 受賞論文抄録

Milk Casein Inhibits Effect of Black Tea Galloylated Theaflavins to Inactivate SARS-CoV-2 In Vitro (論文)

福岡大学医学部 救命救急医学 助教 中 塩 舞衣子 (39 回生)



「研究論文の課題」

SARS-CoV-2 は変異しながら世界中の人々の健康や社会経済の脅威となっている。我々は以前に緑茶や紅茶などの飲料水を試験管内で処理すると、SARS-CoV-2 が著しく不活化されることを報告した。紅茶は砂糖やミルク、レモン汁などと一緒に摂取する機会が多く、これらの成分が紅茶の抗 SARS-CoV-2 効果に影響するかどうかは不明である。そこで今回これらの成分が存在する場合のオミクロン株における紅茶の効果を調べた。オミクロン株の感染力は紅茶

で10秒間処理した後に1/100に減少した。小さじ1杯または2杯のミルク(4～8ml)は125mlの紅茶の抗ウイルス効果を完全に阻害したが、砂糖やレモン汁を添加しても阻害しなかった。また抗 SARS-CoV-2 活性はミルクカゼインにより用量依存的に阻害されたが、ホエイタンパクでは阻害されなかった。本研究によりカゼインがウイルス不活化効果に関与するテアフラビンに結合するため、紅茶の抗 SARS-CoV-2 効果が打ち消されることを初めて実証した。この結果より、SARS-CoV-2 感染者がミルクなしの紅茶を摂取することで唾液中のウイルスが不活化される可能性があることを示唆している。

Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry (論文)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 出水総合医療センター 安心院 勇 佑 (42 回生)



目的: 肝線維化スコアは、肝臓痕化の程度を反映する指標であり、心血管病との関連性が指摘されている。今回、冠動脈疾患 (CAD) のスクリーニングのために冠動脈 CT 検査 (CCTA) を施行した患者 (高血圧患者含む) における主要心血管イベント (MACE) と

肝線維化スコアとの関連性を検討した。

方法: 福岡大学病院において、臨床的に CAD の疑いがある、または少なくとも 1 つの動脈硬化危険因子を持っており CCTA を施行後、最長 5 年間まで予後調査した 612 名の患者を対象とした。CCTA において冠動脈に 50% 以上の有意狭窄を認めた場合を CAD と診断し、主要評価項目は、MACE (全死亡、虚血性脳卒中、急

性心筋梗塞、冠動脈再血管再建術) とした。全患者、さらに高血圧の有無により MACE 群と非 MACE 群に分類し比較検討した。

結果: 全患者又は高血圧患者における FIB-4 は、MACE 群が非 MACE 群に比し有意に高値であった。高血圧患者のみを対象とした MACE の Event-free survival rate は、肝線維化高リスク群 (FIB-4 値 2.67 以上) で低・中リスク群 (2.67 未満) に比し有意に低値であったが、全患者及び非高血圧患者を対象とした場合は有意差を認めなかった。また、高血圧患者における MACE に関連する独立因子は、肝線維化スコアと Body mass index (BMI) であった。

結語: CCTA を施行された高血圧患者において、肝線維症スコアおよび BMI が MACE の独立した関連因子になり得る可能性が示唆された。

Induction of potassium channel regulator KCNE4 in a submandibular lymph node metastasis model (論文)

福岡大学医学部 整形外科 福大大学院生 藤田 潤 (準会員)



背景

寛骨臼周囲骨切術 (以下 PAO) は症状を有する発育性股関節形成不全の手術として用いられ、いくつかの合併症が報告されている。外側大腿皮神経障害 (以下 LFCN injury) は合併症の 1 つであり、臨床成績にも影響を与えて

る。LFCN injury による症状の経時的な変化を検証した報告は認めない。

目的

PAO 後の LFCN injury の罹患率と症状の経時的変化及びそれに伴う臨床成績について評価する事。

方法

2016 年 5 月から 2018 年 7 月に当院で PAO を行った 40 例 40 股を対象とした。LFCN injury の評価は術後 1 年と術後 3 年以上で行った。症状は程度、範囲について評価した。

結果

術後 1 年、3 年以降の段階で LFCN injury 罹患率はそれぞれ 50%、33% であった。術後 1 年と 3 年以降の間で症状の程度、範囲に有意な差は認めなかった。術後 3 年では patient satisfaction と mental の項目が LFCN injury 罹患者で有意に低かった。

考察

LFCN injury による症状は経時的な改善を認める症例とそうでない症例があった。また患者満足度や精神面に影響を与える可能性が示唆された。

Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy (論文)

福岡大学医学部 整形外科 友愛医療センター 小田 大 嘉 (36 回生)



【目的】

変形性膝関節症の治療である骨切り術において、ヒンジ部の骨折は骨切部の不安定に繋がり、術後成績が低下する。軟部組織がヒンジに対して安定的に働く事が報告されているが、lateral closed wedge distal femoral osteotomy (LCWDFO) に関しては、軟部組織

の詳細な報告はない。

目的は

- ① LCWDFO のヒンジ周囲の軟部組織を解剖し明らかにすること。
 - ②①の結果で得られた組織を組織学的に調査すること。
 - ③②の結果に基づき、軟部組織の観点から適切なヒンジポイントを放射線学的に検討すること。
- 大腿遠位内側の軟部組織を調査することで LCWDFO

におけるヒンジポイントの safe zone が明らかになると仮説を立てた。

【方法】

死体膝 20 膝を解剖し、ヒンジ周囲の軟部組織を調査した。続いて電子顕微鏡でそれらの厚みや付着部の長さの計測を行った。さらに、画像編集ソフトで単純 X 線画像とグラフ化した組織の計測結果を統合し適切なヒンジポイントを検討した。

【結果】

ヒンジ領域には、内転筋腱と骨膜の存在が確認された。骨膜の厚みは、骨幹端部で $352.7 \pm 58.6 \mu\text{m}$ (範囲: 213.6 ~ 503.4) であった。また、内転筋腱は内転筋結節を頂点とし、遠位方向に $7.9 \pm 1.3\text{mm}$ (範囲: 6.3 ~ 9.7) まで観察された。LCWDFO のヒンジは大腿骨後顆上縁と内転筋結節で囲まれるエリアに作成することで、軟部組織による安定性が得られると考える。

Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects (論文)

福岡大学医学部 整形外科 福大助教 杉野 裕 記 (準会員)



論文抄録:

足底腱膜炎に対するストレッチは良好な治療成績が報告されていますが、ストレッチが与える影響を検討した研究はありません。shear wave elastography (SWE) は音響放射インパルスによって加振を行い、生じたせん断波の伝搬速度から組織の elasticity を測定するものです。今回私達はストレッチが足底腱膜の shear wave elasticity に及ぼす影響を検討しました。健常者 14 名 28 足を対象とし、足底腱膜ストレッチ (間欠的; 10 秒 × 10 回、持続的; 3 分 × 1 回) 前後に elasticity を測定。2 週間後、同被検者に対してアキレ

ス腱ストレッチ前後に再度同様の方法で測定しました。各ストレッチ前の elasticity は各ストレッチ後と比較し有意に高値でした ($p < 0.01$)。またストレッチの種類 (足底腱膜ストレッチ VS アキレス腱ストレッチ) ではストレッチ後の elasticity に有意差を認めませんでした。ストレッチの方法 (間欠的 VS 持続的) では足底腱膜ストレッチでは有意差は認めませんでした。持続的アキレス腱ストレッチ後の elasticity が間欠的アキレス腱ストレッチ後の elasticity より有意に高値でした ($p = 0.029$)。ストレッチを行うことで足底腱膜の elasticity は上昇しましたが、ストレッチの種類での明らかな差は認めませんでした。今後足底腱膜炎患者にも同様の研究を行い、臨床成績との関連を調査する必要があると考えます。

ス腱ストレッチ前後に再度同様の方法で測定しました。各ストレッチ前の elasticity は各ストレッチ後と比較し有意に高値でした ($p < 0.01$)。またストレッチの種類 (足底腱膜ストレッチ VS アキレス腱ストレッチ) ではストレッチ後の elasticity に有意差を認めませんでした。ストレッチの方法 (間欠的 VS 持続的) では足底腱膜ストレッチでは有意差は認めませんでした。持続的アキレス腱ストレッチ後の elasticity が間欠的アキレス腱ストレッチ後の elasticity より有意に高値でした ($p = 0.029$)。ストレッチを行うことで足底腱膜の elasticity は上昇しましたが、ストレッチの種類での明らかな差は認めませんでした。今後足底腱膜炎患者にも同様の研究を行い、臨床成績との関連を調査する必要があると考えます。

「PEG 修飾改良型アポ A1 模倣ペプチドの動脈硬化モデルマウスに対する効果とその機序に関する検討」(計画)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大大学院生 津 留 陸 (準会員)



我々はアポ A1 模倣ペプチド (FAMP:Fukuoka Apolipoprotein A-1 Mimetic Peptide)を開発し、D 体アラニンを付加した改良型 FAMP (iFAMP) や、ポリエチレングリコール修飾した改良型 FAMP (PEG-iFAMP) を研究してきた。PEG-iFAMP は長い血中滞留率を示し、コレステロール引き抜き能力を高い水準で維持されることが期待されている。今回の研究では、動脈硬化モデルを確立したマウスに対して PEG-iFAMP を投与し、その効果を検証することを目的とした。動脈硬化モデルマウスは 12 週雄性 ApoE KO マウスに高脂肪食負荷、アンジオテンシン II 皮下持続投与

を 12 週齢から 24 週齢まで、また 18 週齢時にストレプトゾトシン単回腹腔内投与して作製する。研究対象のマウスをコントロール群、SHAM 群、iFAMP 群、PEG-iFAMP 群の 4 群に分け、それぞれに薬剤を 12 週齢から 24 週齢まで週 3 回腹腔内投与し、その効果を検証する。定期的に体重、血圧、血糖値を測定し、麻酔下に経胸壁心エコー検査を施行する。最終日には安楽死させ、血液、大動脈、心、肺、腎臓、肝臓などの摘出を行い、病理学的、組織学的に評価を行う。特に大動脈サンプルを用いての Oil-Red-O 染色や、組織中の mRNA の発現量を RT-PCR 法で、タンパク合成量を western blotting 法で評価する。PEG-iFAMP 投与群で高い抗動脈硬化作用を示すことが期待される。

令和5年度 受賞研究計画報告

「経カテーテル的大動脈弁の術後変化に対する multi-imaging modality を用いた検討」

福岡大学病院 循環器内科 福大講師 加藤 悠太 (33 回生)



経カテーテル的大動脈弁置換術 (transcatheter aortic valve replacement; TAVR) には、主に BEV (balloon-expandable valve) と SEV (self-expandable valve) の 2 種類が使用される。BEV と SEV を比較した CHOICE trial では、総死亡や心血管死亡に両弁で差は無いものの、人工弁構造的劣化は BEV に有意に多く、理由として SEV が BEV に比して圧較差や弁口面積などの血行動態指標が良好であることが示唆された。BEV は留置直後に recoil を来とし、弁口面積に影響を与えるとされる。Recoil を CT で評価した先行研究では、BEV は留置後急性期と慢性期で拡張率に変化はなかったが、Mechanically expanding valve (本邦では未認可) は遅発性に拡張していた。今回、本邦で主に使用されている BEV と SEV での recoil や人工弁

張率について CT を用いて検討した。当院で TAVR を実施し、術翌日と術後 1 週間で、入院中に 2 回 CT を撮った症例を対象とした。翌日と 1 週間の CT 画像を用いて人工弁面積 (Δ expansion area rate) を測定し、BEV と SEV で比較検討した。2023 年までの実施症例を解析し、BEV 36 例、SEV 22 例を対象とした。BEV の Δ expansion area rate は $-4.8\% \pm 10.8\%$ 、SEV は $-12.6\% \pm 11.3\%$ で、SEV は BEV に比して有意に recoil していた。Recoil に関する因子をロジスティック解析したところ、BEV では自己弁の石灰化量・TAVR 時の前拡張の有無・後拡張の有無、SEV では前拡張の有無が関係していた。但し、人工弁の選択には多くの因子が交絡するため、selection bias が生じることは limitation であった。まだ母集団の少ない研究結果であり、研究を更に進めその結果を論文という形で烏帽子会へフィードバック出来ればと考えている。



 **最優秀賞** 

福岡大学医学部 救命救急医学
中塩舞衣子先生 39回生
Maiko Nakashio, M.D.

Milk Casein Inhibits Effect of Black Tea Galloylated Theaflavins to Inactivate SARS-CoV-2 In Vitro

令和6年度烏帽子会研究奨励賞



 **最優秀賞** 

福岡大学医学部 心臓・血管内科学
安心院勇佑先生 42回生
Yusuke Ajimu, M.D.

Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry

令和6年度烏帽子会研究奨励賞



 **優秀賞** 

福岡大学医学部 整形外科
藤田潤先生 準会員
Jun Fujita, M.D.

Incidence and Clinical outcome of lateral femoral cutaneous nerve injury after periacetabular osteotomy

令和6年度烏帽子会研究奨励賞



 **優秀賞** 

福岡大学医学部 整形外科
小田大嘉先生 36回生
Taiga Oda, M.D.

Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy

令和6年度烏帽子会研究奨励賞




 **優秀賞** 

福岡大学医学部 整形外科
杉野裕記先生 準会員
Yuki Sugino, M.D.

Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects

令和6年度烏帽子会研究奨励賞



 **奨励賞** 

福岡大学医学部 心臓・血管内科学
津留陸先生 準会員
Riku Tsudome, M.D.

PEG修飾改良型アポA1模倣ペプチドの動脈硬化モデルマウスに対する効果とその機序に関する検討

令和6年度烏帽子会研究奨励賞





救命救急医学 喜多村泰輔准教授、仲村佳彦教授と



整形外科前山彰診療教授、木下浩一准教授と

こほれ話:来場されていた山本卓明教授は他用のためお帰りになりましたが、直ぐに戻って来られました。撮影が終わった後でしたので残念でした。



心臓・血管内科学 三浦伸一郎教授と



FU-OMSA賞状・タイバー授与

令和6年7月6日総会にて賞状と名前が印刷されたタイバーの授与を行いました。



池松 美織さん



福島 友浩さん



● 総会報告（受賞者） ●



布山 智也さん



和田 卓己さん



平沼 卓也さん



野田 駿斗さん



山田 隼輝さん



松尾 美月さん



中野 貴文さん



犬塚 夕貴さん

烏帽子会賞賞状授与

烏帽子会賞賞状授与

一昨年より、九州山口医科学生体育大会が開催され、水泳愛好会、柔道愛好会の方々が優秀な成績を収められました。また、第23回日本内分泌学会九州支部学術集会 若手奨励賞(YIA)を授賞された学生さんへ、令和6年7月6日総会において賞状と賞金を授与を行いました。

学年	愛好会名	姓名	受賞対象
5年生		巻 幡 健 介	第23回日本内分泌学会九州支部学術集会 若手奨励賞(YIA)
3年生	柔道愛好会	小 林 友 輔	第63回九州山口医科学生体育大会 男子団体戦優勝
4年生	水泳愛好会	瀬 口 絢 士	第63回九州山口医科学生体育大会 男子50M バタフライ・50M 自由形 1位
4年生	水泳愛好会	瀬 口 絢 士	第75回西日本医科学生総合体育大会 男子50M・100M 自由形 1位

若手奨励賞 (YIA)



巻幡健介さん



巻幡健介さん



内分泌・糖尿病内科学川浪大治教授と記念撮影

水泳愛好会



瀬口絢士さん



瀬口絢士さん



水泳愛好会顧問の三浦伸一郎教授、愛好会仲間の川合弘恵さん、岡本克隆さんも一緒に記念撮影

柔道愛好会



園康佑さんと小林友輔さん



柔道愛好会顧問の川浪大治教授、柔道愛好会のOBの先生方と記念撮影

学生医学教育貢献者賞

学生医学貢献者賞の授与

この賞は、2022年に初めて設けられてものです。毎年授与される賞ではなく今年で2回目の授与となります。

今年授与された大久保久常氏は、福岡大学医学部医学科の情報部門において、医学生、卒業生をはじめ多くの病院関係者へ最新かつ正確な医学情報を

提供し続けて来られました。特にコロナ禍では講義のオンデマンド対応のため設備の準備、録画、配信と多大なる貢献を修められました。学生教育にご尽力頂いたことへの感謝の気持ちを込めて「学生医学教育貢献者賞」をお贈りいたしました。



大久保久常氏

令和7年度 福岡大学医学部同窓会烏帽子会

研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由(医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による(所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 / 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：令和7年5月7日(水)提出は一人一件とする。
過去受賞した申請者は、以後審議選考者として含まない。

賞状・賞金：奨励賞(優秀論文賞を含む)5件以内

発表及び表彰：令和7年7月5日(土)予定、第44回福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会席上
必ず出席する事

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること
計画受賞者は1年後研究成果報告書を提出する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードの事
③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の獨創性・重要性を十分に書く事

※準会員の方もご応募ください。

令和5年度評議員会議事録

令和5年度評議員会議事録

- ◆日時 令和6年4月27日 16時
- ◆場所 TKP ガーデンシティ
PREMIUM 天神スカイホール
- ◆出席 理事監事26名、評議員31名（支部長5名）、
支部長4名、委任状49名、返信なし8名

◇議題1. 第22期会長推薦

- ・6名の立候補(1人体調不良のた辞退)があり。
現会則では理事会で決定し評議員会に推薦するとあるが、投票形式を全評議員に依頼した。
- ・委任状の扱いについて意見が出されたが、委任状も有効とする投票形式となる。
- ・投票の結果小玉先生が第22期会長と決定した。

◇議題2. 経過報告

- ・第118回医師国家試験状況説明
- ・令和6年度子女入試状況
- ・令和5年度研究奨励賞受賞者
- ・事業と行事
- ・黙祷 亡くなった先生方を悼み黙祷

◇議題3. 令和5年度収入支出決算見込 承認

◇議題4. 令和5年度事業報告及び 令和6年度事業計画(案)について 承認

①会報の発行

会報/例年2回春と秋に発行。送付先は正会員、特別会員、準会員、学生会員とその保護者、各医局、他学同窓会、医学部、病院、本学の役職者。入学者分冊数増加。

②総会の開催

総会は4年ぶりの対面開催。着座形式を採用。第42回は26回回生の寄付内ではほぼ収められたが、ホテル側の協力も大きい。令和6年度は会場費、人件費、食材の高騰から今年以上の経費がかかるとの報告を既にホテル側より受けている。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

③支部活動援助

師招聘援助金は筑後支部より申請あり。支部活動費は、支部徴収をしていただいている支部に対して通信運搬費等として援助している。各支部活動費は各支部の活動を援助するために使用している。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

④研究奨励賞

14件の論文、1件の計画が出された。最優秀1名、優秀賞4名、奨励賞1名、激励賞9名が選考委員会で決定した。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

⑤在外研修援助金

令和5年度は2名の申請あり、3月支払いのため記載されていない。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

⑥学生会員支援

コロナ前は、新入生歓迎会、CBTやOSCE試験のためのM4激励会、国試に向けてのM6激励会と懇親会を開催していたが、コロナ後は新入生歓迎会の懇親会のみ開催し、M4激励会は5年生より直接CBT合格体験を聞く会や、CBT試験当日の飲物やおにぎりを準備へと変更した。令和6年度は新入生歓迎会開催のホテルより食材、人件費の高騰により経費がかかるとの報告を受けており60万円の増額としている。

⑦白衣贈与

今まで使用してきた、生地が生産されなくなり生地の変更が生じた。以前より500円ほどの値上がりになるため令和6年度は14万円の増額としている。

⑧国試対策費

10月に国試対策画像講座を開催、12月には国試対策直前講座を開催している。国試当日役にたつように応援袋を準備している。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

⑨支部祝儀贈与

令和5年度は、筑後、佐世保、佐賀、関西、鹿児島
の5支部が総会を開催され祝儀を贈っている。関東支部

の発足の祝儀も贈る予定。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

⑩学生行事援助

烏帽子会賞として水泳愛好会、日本内分泌学会九州支部学術集会でYIAを受賞した学生さんに授与した。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

⑪学会寄付

5件の申請があり規定にそって援助している。

⑫慶弔贈与

3教授の就任祝儀のグラス、学長、総病院長退任の記念品をお贈りした。4名の先生方へお花、ご仏前をお送りした。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

⑬グッズ作製

令和5年度作成なし。令和6年度予算計上なし。

⑭会員名簿

令和6年度名簿作成。

⑮パニックマニュアルの発行

令和6年度計上なし。

⑯奨学金緊急貸与

令和5年度申請なし。令和6年度予算計上なし。

⑰縁結び

事業開始より10年間婚姻の成立がないため見直す方向で検討している。登録者には取り下げの有無を確認。取り下げ終了までホームページドメイン料発生のため計上。

⑱保険コンサルティング紹介

案内に使用する封筒代だが、令和5年度は作成なし。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

⑲ホームページ

烏帽子会WEBサイトサーバー費。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

⑳大学院生援助

令和5年度は6名申請。令和6年度も令和5年度同様の予算を計上。

㉑学生医学教育貢献者賞

令和5年度は該当者なし。令和6年度も令和5年度同

様の予算を計上。

◇議題5. 令和6年度収入支出予算(案) 承認

◇議題6. 特別会計令和5年度決算見込み及び令和年度予算 承認

◇議題7. 規約について

- ・評議員を代議員という名前に変えて、代議員総会という形に変わっているが、会員が集まったの総会の定義が記載されていない。
 - ・最高意思決定権、意思決定権を現状の会則では、総会で承認するとあるが、あるときは代議員総会とあり、あるときは理事会となってバラバラなところがある。
 - ・評議員と理事の学内学外のバランスの問題。
 - ・役員の任期について、理事が2年で評議員が3年の理由。
 - ・評議員の選出方法や理事の選出方法で支部評議員だけ何故選挙なのか。
- 等の質問あり。

質問されたことも含めてこの会則案を変更する時には必ず評議員会の承認を得るという理解の元、案を承認となる。

◇議題8. 第22期役員改選について

◇議題9. 決算評議員会の省略の権

◇議題10. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会第43回総会案内

◇議題11. 新教授紹介・ご挨拶

令和6年4月1日より福岡大学筑紫病院消化器内科教授
久部 高司 先生 17回生

令和6年4月1日より福岡大学医学部脳神経内科学教授
馬場 康彦 先生 20回生

令和6年4月1日より福岡大学医学部医学教育推進講座教授
北島 研 先生 21回生

令和6年4月1日より福岡大学医学部救命救急医学教授
仲村 佳彦 先生 27回生

令和6年4月1日より福岡大学病院医療安全管理部教授
小吉 里枝 先生 28回生

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野 教授 三嶋 崇 靖 (31 回生)



三嶋崇靖(みしまたかやす)
教授 略歴

1983 年 10 月 6 日生
2002 年 3 月
福岡大学附属大濠高等学校卒業
2002 年 4 月
福岡大学医学部医学科入学
2008 年 3 月
福岡大学医学部医学科卒業
2008 年 4 月
佐世保共済病院 臨床研修医
2009 年 4 月
九州大学病院 臨床研修医
2010 年 4 月
福岡大学病院神経内科・健康管理科 助手
2012 年 4 月
福西会病院神経内科
2013 年 4 月
福岡大学病院神経内科・健康管理科 助手
2014 年 10 月
京都大学 iPS 細胞研究所 国内留学
2015 年 10 月
福岡大学病院神経内科・健康管理科 助手
2016 年 4 月
福岡大学病院神経内科・健康管理科 助教
2016 年 10 月
米国メイヨークリニックフロリダ 留学
2017 年 4 月
福岡大学病院神経内科・健康管理科
(脳神経内科) 助教
2021 年 4 月
福岡大学病院脳神経内科 講師
2023 年 4 月
福岡大学病院脳神経内科 准教授
2024 年 4 月
福岡大学医学部脳神経内科学 准教授
2024 年 10 月
東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野 教授
東邦大学医療センター佐倉病院脳神経内科 診療部長

2024 年 10 月 1 日付で東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野 教授、東邦大学医療センター佐倉病院脳神経内科 診療部長を拝命いたしました三嶋崇靖(みしまたかやす)と申します。私は 2008 年に福岡大学医学部を卒業し、佐世保共済病院と九州大学病院で臨床研修を行い、2010 年に福岡大学病院神経内科・健康管理科(脳神経内科)に入局いたしました。2013 年から大学院に進み、大学院在学中に京都大学 iPS 細胞研究所とメイヨークリニックフロリダに留学いたしました。2017 年の帰国後からは多くの神経疾患を経験し、2021 年から 2023 年までは病棟医長として脳卒中から神経変性疾患まで幅広く診療いたしました。現在の主な専門分野はパーキンソン病とパーキンソン病関連疾患で、パーキンソン病診療では多職種連携により、デバイス補助療法を積極的に行って参りました。その中でもライフワークである遺伝性パーキンソン病関連疾患の Perry 病(指定難病 126)では、臨床および研究について世界をリードしてきました。具体的には新たな家系の発見と臨床徴候の報告、臨床病理学的疾患概念の確立、国際診断基準の作成と Perry 症候群から Perry 病への名称変更を行いました。基礎研究では iPS 細胞から疾患モデルの作成と遺伝子改変マウスの作成を行い、現在もそれらを用いた病態解明研究を継続しております。また、Perry 病との出会いから遺伝カウンセリングにも興味を持ち、遺伝性の神経変性疾患を中心に遺伝カウンセリングを行ってきました。今後は希少疾患からコモンディージーズへの病態解明や創薬につながる研究を行って参ります。

私が赴任した東邦大学医療センター佐倉病院は千葉県佐倉市に位置します。現在、佐倉病院脳神経内科は少人数の小さな診療科のため、まずは脳神経内科領域の診療体制を確立し、“Be a good general neurologist”をキーワードに素晴らしい general neurologist の育成を目指します。今後は外からになりますが、福岡大学の発展に貢献できるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

教授退任挨拶

筑紫病院での 32 年を振り返って

福岡大学筑紫病院 前消化器内科 教授 植木 敏 晴 (8 回生)



1985 年に福岡大学医学部を卒業し、同第一内科(奥村 拘教授:現消化器内科)に入局後、肝臓研究室で超音波のパイオニアの一人である坂口正剛講師の下で肝胆膵領域の肝・膵生検や局所治療な

どの超音波関連手技を学びました。1991 年から 2 年間学内留学で同第一外科池田靖洋教授、真栄城兼清講師に胆道膵疾患に対する内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)、内視鏡的乳頭切開術(EST)や超音波内視鏡(EUS)、経皮経肝胆管ドレナージ(PTBD)、経皮経肝胆嚢ドレナージ(PTGBD)の技術指導をしていただきました。1992 年に福岡大学筑紫病院消化器内科に入局後、肝胆膵研究室で肝胆膵領域の内視鏡や超音波の関連手技を用いて診療を行ってきました。福岡大学筑紫病院消化器内科の初代教授八尾恒良先生、2 代目の松井敏幸先生の後任として 2015 年に 3 代目の教授に就任し、本年 3 月末で退任しました在任中は毎年 4、5 名の入局者があり、学内外を合わせて総勢 60 名前後の教室員で肝胆膵研究室と消化管研究室のバランスを取りながら教室運営を行ってきました。本年 4 月から働き方改革が始まり、ライフワークバランスを考えた勤務体制が求められます。それに先駆けて教室では当直明けの休みや時間外労働の減少に取り組み、女性医師には妊娠、出産から育休を考慮したプログラムを呈示し、研修医を勧誘してきました。関連病院には常に専攻医、上級医と指導医で派遣し、院内と同様の指導ができる教育体制を構築し、「一子相伝」ではなく、「多子相伝」を心掛けて教室員の指導を行い、多くの消化器専門医が育っていきました。

筑紫病院は福岡大学の第 2 病院として地域に密着した「あたたかい医療」をスローガンに、教室では筑紫医師会や開業医と緊密に連携し、地域医療・救急医療を、研究面では豊富な症例を基に国内外に臨床の新知見の発表を行ってきました主催する全国や地方の学会・研究会の開催に際し、烏帽子会には、その都度ご協力していただき大変お世話になりました。特に 2022 年に福岡で開催しました日本消化器関連学会週間では 24,000 名を超える参加者で盛会に終えることができました。誠にありがとうございました。

福岡大学の 2 つの病院、福岡大学病院と福岡大学筑紫病院は、福岡大学に直属する病院として医療を行ってきました。最近、3 つ目の病院として西新病院(旧福岡市医師会成人病センター)が加わりました。前述しましたように 1985 年に開院した筑紫病院で消化器内科は 1988 年から初代教授の八尾恒良先生の下で独立した医局として教室を発展させてきました。2 代目の松井敏幸教授、3 代目の私の代でも継続して筑紫病院の収益の 3 割超を占め、病院経営に大いに貢献しています。

さて、従来福岡大学消化器内科から西新病院に医師を派遣していましたが、福岡大学消化器内科の退局者が多いことから平井教授から依頼があり、吉満医療担当副学長、小玉医学部長の強い要請もあり、4 月から筑紫病院消化器内科から西新病院への常勤医 2 名の派遣を決定しました。福岡大学の病院が 3 病院になり、さらにお互いの連携は必要で福岡大学病院消化器内科と筑紫病院消化器内科が医局の特徴を生かしてさらに発展していくことを願っております。

最後に、私を育ててくれた福岡大学、福岡大学筑紫病院に深く感謝いたします。現在、その御恩に報いるためにも筑紫病院の後教育、技術指導に非常勤として勤務しています。今後、福岡大学筑紫病院をはじめ福岡大学全体、そして烏帽子会が益々発展することを祈念しております。

長い間ありがとうございました。

学会報告

第 83 回日本人口学会九州地域部会開催のご報告

福岡大学医学部衛生・公衆衛生学講座 教授 有馬 久 富 (特別会員)

令和 6 年 9 月 6 日に福岡大学医学情報センター棟にて、第 83 回日本人口学会九州地域部会を開催いたしました。本学会開催にあたり、医学部同窓会からご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

現在、世界人口は依然として増加を続ける一方、先進国を中心に出生率の低下と急速な高齢化が進行し、日本を含む一部の国では人口減少社会に突入しました。こうした複雑な問題を解決するために、日本人口学会ではさまざまな分野の専門家が集結して学際的な人口研究に取り組んでいます。

第 83 回日本人口学会九州地域部会では、まず、琉球大学 中村幸志先生に「地域の特徴に注目した疫学研究」というタイトルで特別講演をいただき、与那国島で実施されている疫学調査の現状についてご紹介いただきました。研究報告として、群馬大学情報学部 草野邦明先生から「POS データを用いた総合スーパーマーケットの商圈分析」というタイトルで、千葉県においてスーパーマーケットへ来店されるお客様の動向分析に関する報告をいただきました。国立社会保障・人口問題研究所 林玲子先生からは、「ICPD30 「人口と開発」の 30 年：何が変わり何が変わらないか」というタイトルで講演をいただきました。1994 年にカイロで開催された International Conference on Population and Development (ICPD) では、179 の政府が「カイ

ロ行動計画」を採択し、人口は数の問題ではなく、一人一人の尊厳と生活の質に関する問題であると合意されました。今年は ICPD 後 30 年目にあたり、どのような振り返りがされて、どのように今後のアクションプランが立てられてゆくかについてお話をいただきました。青山学院大学 井上孝先生（日本人口学会会長）からは、「韓国版小地域将来人口推計システムの公開について」というご講演をいただき、シミュレーションにより小地域別に人口がどのように変化してゆくかを予測する取り組みについてお話をいただきました。最後に、有馬より「健やか 100 年人生をささえる血压管理」というタイトルで、現在の日本における血压管理が不十分であること、血压管理においてデジタル技術の活用に着目が集まっていること、Evidence-Practice Gap を埋めるために様々な社会実装の取り組みをおこなって「健やか 100 年人生」を目指してゆく必要があることを話しました。参加された先生方には、活発なご議論をいただき、盛会のうちに修了いたしました。

今回の九州地域部会が滞りなく開催できたのは、同窓会の先生方からのご支援の賜物と、あらためて心より御礼申し上げます。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



日本高血圧学会 高血圧フォーラム 2024 を終えて

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 主任教授 三浦 伸一郎 (11 回生)

この度は、福岡大学医学部同窓会のご支援の下、2024年5月25-26日に日本高血圧学会 高血圧フォーラム 2024 をコングレスクエア日本橋 (東京) にて開催させていただくことができました。紙面を借りまして、ご報告させていただきます。

降圧治療は、先人達のたゆまぬ努力により、利尿薬、Ca拮抗薬、ACE阻害薬からARBへと開発が進み、一般化され特別な治療法ではなくなってきました。その反面、未治療患者や降圧目標未達成患者が多数存在し、医療者も患者もクリニカルイナシヤが問題視され、その解決には、本フォーラムの3つの構成要素であります基礎研究、Digital Hypertension、臨床の3本柱とともに、多職種による患者中心の医療が重要であることはいまでもありません。「高血圧撲滅に向けて～基礎研究からAI戦略や双方向性通信機器の役割、実臨床・多職種連携まで」を持続性のあるトピックスとして取り上げ、専門医・非専門医を問わず、研修医、開業医、さらに、多職種のメディカルスタッフが参加した興味深い高血圧撲滅へ向けたフォーラムを実施させていただきました。さらに、国内外の高名な先生をお呼びし、降圧治療について様々なトピックスのご講演をしていただきました。

特に、特別講演は、米国オハイオ州クリーブランドクリニックのカーニック博士にWEBにて、Molecular structures and mechanisms of G-protein coupled receptors for angiotensin peptides を中心とした研究のご講演をしていただきました。また、シンポジウム1では、高血圧形成に深く関わるミネラルコルチコイド受容体 (MR) について、糖尿病による網膜症や腎障害との関連性について、5名の専門の先生か

らご講演をしていただきました。シンポジウム2では、臨床実装に向けたカフレス血圧測定技術の最前線について、3名の専門の先生からご講演、シンポジウム3では、HER、PHR、および生成AIの活用について3名の専門の先生からご講演、シンポジウム4では、多職種連携の実際について、運動療法、栄養士との連携、コーチング、保険薬局との連携について、4名の専門の先生からご講演をしていただきました。また、シンポジウム5では、実地医家のアンケートでよく出る質問の中かから起立性低血圧、白衣高血圧、拡張期血圧にどのように向き合いどう対応すればよいのかを3名のエキスパートの先生に解説していただき、シンポジウム6では、糖尿病、循環器、慢性腎臓病の分野で盛り上がっている Fantastic Four (ARNI、SGLT2 阻害薬、β遮断薬、MRB) の使い方や意義について、4名の専門の先生からご講演をしていただきました。

今回の学会が滞りなく開催できましたのも同窓会の先生方のご支援のおかげです。厚く御礼申し上げます。今後ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



第46回日本中毒学会総会・学術集会開催報告と御礼 「請われれば・・・」

第46回日本中毒学会総会・学術集会会長

神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター長 有吉孝一 (14回生)

日本中毒学会はおよそ40年の歴史を持ち、中毒診療の発展と中毒事故・事件の防止に貢献することを目的とした国内唯一の学会である。1,000名を超える会員の構成は医師(救急医、集中治療医、法医学者)のみならず分析や治療に係る薬剤師、臨床検査技師等が多く占めていることが特徴である。毎年、夏に定期学術集会および総会を実施しており、このたび第46回総会・定期学術集会を2024年7月24、25日に神戸国際会議場で主催した。(図1)

今回のテーマは働き方改革元年を記念し「Ready for Break?」とした。全力で頑張ればかりいでは、いざというときに本当の実力は出せない。もっと遊んで柔軟な発想を出そう。休んで余裕を持とう。という思いを込めた。

盛会裏に終えたのち、なかなか、まともな精神状態では全国学会の責任者は務められないというのが正直な感想である。そんな中で思いがけず、福岡大学医学部烏帽子会に多大なご寄付を頂いたのは一服の清涼剤を得た思いであった。伏して御礼申し上げます。誠に有難うございました。

ここに感謝を込めて終了の報告をするとともに、学会長の経験から皆さんが学術集会に参加するうえで、有益と思われるご助言を差し上げたい。

1、学会長には積極的に話しかけよう

会長は多忙だが孤独である。知り合いでなくともよいので、話しかけてほしい。今まで、自分は知人が学会長をやっている、忙しそうだから邪魔しないでおこうと気を使って遠目から眺めて心で応援していた。しかし、これは間違っていた。

「ご盛会おめでとうございます」というのが一般的だが、時間がなければ「ようよう」とでも声をかけるだけでもいい。一番嬉しいのは苦勞して企画したプログラ

ムを褒められる事だ。本学会では特別講演に新千円札のモデルになった北里柴三郎のひ孫北里英郎先生に柴三郎の事績とともに自身の留学経験と研究者の心構えを「A Romanticist and a Gentleman」と題して話していただいた(図2)。また、自殺予防、病院前救護・災害、ER、ICU、拮抗薬・分析、自然毒・血清療法、法医学とそれぞれのシーンに合わせて8つの主題を定め、新進気鋭のプランナーにシンポジウム、パネルディスカッションを企画してもらった。8つの基調講演は松本俊彦先生、林寛之先生、中島和江先生、土井研人先生などロックスターを揃えた。勉強になった、楽しかったと参加者から感想を言ってもらえるのが私にとって最大の喜びで最高の学術集会開催の費用対効果である。

2、内容はSNSで発信しよう

参加した証拠を残すため、学会場の看板前で記念写真を撮ることがある。中には写真だけとって街に消える人もいるが、参加費さえ払っていただければ特段の苦情はない。

本テーマ「Ready for Break?」にちなんだ本学術集会ポスター(図3)を示す。画面中央の人物の足元には血清療法セッションにちなんだ毒蛇がとぐろを巻いている。この人物のシャツの柄は実は有毒のソテツである。画面上手にはポートタワーなど神戸の遠景が、下手には実際に神戸港から横浜港に出航したダイヤモンドプリンセス号が描いてある。このポスターから人物と蛇を消して拡大したフォトセッションを会期中メインホール前に用意し、リクライニングチェアとゴム蛇3匹を置いた(図4)。参加者にポスター内の人物になってもらうという余興である。インスタ映え(英語でInstagrammableという)を狙い、学会参加の証拠写真を撮るとともにSNSで拡散宣伝して

もらうことが目的である。これも一種のエゴサーチだろうが、参加者のfacebookやX等で学会を楽しんでいる姿をオンタイムで見ることが励みになった。

3、差し入れは薄くて軽いものが良い

事務局にお菓子を差し入れするのは悪くない。しかし、運営スタッフは食べる暇がないので、今回差し入れてもらっためんべいと伊達絵巻とニューヨークパーフェクトチーズはドリンクサービスに置くことにした。そこで考えた。一番嬉しいのは薄くて、軽くて、悪くならず、互換性があり、使用期限がなく、電子媒体でも使えるものである（ちなみにテレホンカードのことはない）。

不況と企業にとっての費用対効果が良くないこともあり、開催資金集めには始終苦戦した。ランチョンセミナーの企業が集まらず、本学会はプログラムで勝負する。弁当よりも感動だと強がっていた。

烏帽子会には最初から寄付をお願いしたのではない。関西地方在住の同窓会諸氏に参加してほしいので、ホームページで周知していただけないか問い合わせたのである。直ちに小玉会長のご高配を賜り、理事会で審議のうえ同窓会事業の一環として思いがけず、本当に思いがけずに多額のご支援を頂いた。沖縄県立中部病院同窓会からも同様に頂いたが、烏

帽子会からのそれは寄付金中で最大額であった。私は感激して涙した。重ねてお礼申し上げます。

おわりに

「請われれば 一差し舞える 人物(ひと)になれ」という。¹⁾ ご如才なきことながら、特に若い後輩諸君に向けて一言申し上げる。

これからキャリアを重ねるうちに忘年会幹事、西医体主幹、結婚式スピーチ、司会にはじまり、要望演題、パネリスト、シンポジスト、座興、座長、プランナー、基調・特別・教育講演演者、果ては定期学術集会会長を依頼されるときが必ず来る。返事は「イエス」か「はい」だ。²⁾ 終わらない西医体、忘年会、結婚式、学会はない。³⁾ 万端怠りなく準備しておかれま

よう。やがて、軽やかに一差し、二差し舞って見せようではないか。

引用文(一部改変)

- 1) 梅棹忠夫(1920～2010)
- 2) 救急医の返事は「イエス」か「はい」だ。
平 泰彦 先生(聖マリアンナ医科大学)
- 3) 「終わらない学会はない」
林 寛之 先生(福井大学)



図1 運営スタッフ、「自然毒・抗毒素血清と中毒」シンポジストと閉会後の記念写真



図2 柴三郎Tシャツを着た北里英朗先生(北里記念館館長)、一三三 亨先生(聖路加国際病院)と



図4 フォトセッションでノッてくれる志賀 隆 先生(国際医療福祉大学)先生、林 寛之 先生(福井大学) 他



図3 「Ready for Break?」のポスター
製作者は成育医療センター小児科
岡嶋貴恵 先生

福岡大学医学部同窓会烏帽子会

在外研修援助金 募集要項

長期研修

対 象：正会員、準会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1

福岡大学医学部同窓会事務局

T E L 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 / 内線 3032

F A X 092-865-9484

援助金：1件20万円を限度とし、年間5件以内

発表：本人に文書にて連絡

その他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事

②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事業に賛同し、渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

第30回日本アフェレシス学会九州地方会を終えて

福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学 准教授 伊藤 建二 (25 回生)

この度は、福岡大学医学部同窓会のご支援の下、2024年4月30日(日)に、当科の升谷耕介主任教授を会長として、第30回日本アフェレシス学会九州地方会を主催させていただくことが出来ました。紙面をお借りしまして、ご報告させていただきます。

アフェレシス (apheresis) はもともとギリシア語で「分離」を意味する言葉で、体外循環によって血液中から血漿成分、細胞成分を分離する、さらには分離した血漿成分から病気の原因となる液性因子を分離することによる治療の総称です。血液から血漿を分離し、分離血漿を廃棄するとともに、廃棄血漿と同量のヒト凍結新鮮血漿で置換するのが古典的血漿交換療法です。近年は分離血漿中からさらに高分子物質、中分子物質などを膜濾過や吸着などの技術を用いて分離除去したり、血液中からリンパ球や顆粒球を吸着除去したりするなど、新しい分離技術を用いた治療法が開発され、さまざまな疾患に応用されています。福岡大学病院の血液浄化療法センターでも、当科のみならず、脳神経内科、腫瘍・血液・感染症内科、消化器内科、循環器内科、腎泌尿器外科など多くの診療科の患者を対象に治療を行っており、令和5年度の治療件数は198件にのぼりました。

今回の学会では、参加人数88名、一般演題数21題と例年より多くの参加者、演題が集まりました。参加者は医師のみでなく、臨床工学技士や看護師も含まれ、各分野で活発に討論が行われ、技量が磨かれる貴重な場となりました。また、特別講演では、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 泌尿器科学分野の今村亮一教授に「抗ドナー特異的抗体陽性腎移植症例に対する治療戦略」のタイトルでご講演いただきました。現在、当科では、末期慢性腎不全患者に対する腎代替療法を提供するにおいて、血液透析偏重を脱却すべく腎移植・腹膜透析の普及に尽力しております。実際、それらは増加しており、2022年は9名の患者が当院で腎移植を受け、過去最高となりました。それに伴い、免疫学的に困難な状況における腎移植が増加していることから、今回の特別講演は本学における腎移植の発展に大きく寄与するものとなりました。

本会が滞りなく開催され、盛会に終わることができましたのも、同窓会そして同門の先生方のご支援のおかげです。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。今後ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



学会報告

福岡大学医学部 消化器内科学 主任教授 平井郁仁 (14 回生)

福岡大学医学部消化器内科学講座の平井郁仁(第14回生)です。第49回日本大腸肛門病学会九州地方会(以下、第49回地方会)および第40回九州ストーマリハビリテーション研究会(以下、第40回ストリハ研究会)を2024年(令和6年)9月21日に、アクロス福岡にて開催いたしました。烏帽子会から両会に対しましてご寄付を賜りましたことを、心から感謝申し上げます。烏帽子会からの温かいご支援により、両会の運営が滞りなく、円滑に進みましたことを先ず報告いたします。

次に、開催概要につき報告させていただきます。大腸肛門病学会九州支部は約50年の歴史と伝統がある学会です。消化器外科、消化器内科、肛門科の3科が関わっており、互いをリスペクトし、協力し合うシームレスな運営が特徴です。参加者は普段は外科や肛門科の先生方が多く、消化器内科医は少ないのですが、第49回地方会は私が会長を務めたこともあり、消化器内科医も含めて多数の先生が参加していただきました(参加医師合計:172名)。主題セッションは、私が専門にしている炎症性腸疾患(IBD)関連のシンポジウムとワークショップ、進行直腸癌のパネルディスカッション、痔瘻をテーマにしたワークショップで構成しました。外科領域の主題や一般演題の構成・内容に関しましては、消化器外科の長谷川傑教授、吉松軍平准教授に多大なる支援とご指導を頂戴しました。この場を借りて深謝申し上げます。肛門領域の教育講演では、公私ともに親しくさせて頂いている韓国のSeokwon Lim先生に

講演して頂きました。地方会ではありますが、少し国際的な要素を取り入れたいという私の意向に沿った素晴らしい講演を拝聴できました。一般演題も多数の演題が集まり、活発なディスカッションが行われました。大腸および肛門疾患の理解を深めるために、消化器内科、消化器外科および肛門科の先生方と共に学び、議論することができ、第49回地方会は盛会裡に終えることができました。

ストリハ研究会は、皮膚・排泄ケア認定看護師(WOCナース)が中心となって開催される研究会です。今回も多く看護師あるいは臨床検査技師などが参加しました(参加者合計:206名)。副会長である消化器病センターの植崎看護師長、および福大病院だけでなくストリハに関わる多くのWOCナースとプログラムを企画して頂きました。認知患者のストーマ造設に関するワークショップ、オストメイトを取り巻く社会保障制度、およびストーマ装具選択と院内整備(管理・運用)についてのパネルディスカッションが開催され、いずれも盛況でした。患者さんに、より良い医療を提供するための議論および次世代WOCナースの育成のための教育の場にしたいという目的は十分に達成できたと考えています。

繰り返しになりますが、今回の第49回地方会と第40回ストリハ研究会に対する烏帽子会ならびに福岡大学同窓会会員の先生方の厚いサポートに感謝申し上げます。今後も消化器内科学講座は、教育、診療、研究活動に注力して参りますので、何卒よろしくお願いいたします。



在外研修報告

オーストラリア在外研修報告

福岡大学病院 救命救急センター

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 救命救急センター 星野耕大 (33 回生)

【はじめに】

2023 年 4 月から 2024 年 5 月にかけて、在外研修制度による援助を頂き、オーストラリアの The Prince Charles Hospital にある集中治療系の研究室 Critical Care Research Group (CCRG) に留学させて頂きましたので、ご報告いたします。

【研究面】

The Prince Charles Hospital はクイーンズランド州で唯一の成人心臓・肺移植の認定施設であり、ECMO 患者も集約化されています。また、私が所属していた研究室 CCRG は ECMO の研究が盛んに行われていました。私は主に ECMO を使った大型動物の研究に携わっており、ECMO から新規の治療ガスを投与する治療法の開発のため大型動物のブタやヒツジに ECMO を導入して、治療効果を評価する日々でした。研究室の医療機器は実際の病院と同規格のものが用いられており、まるで ICU にいるかのような環境でした。動物モデル作成には心臓血管外科医や放射線科医などの専門家と共に処置をして、動物の管理は全国から集まった我々リサーチフェローたちがシフトを組んで勤務をして、最大 3 日間の実験管理を毎週実施していました。世界のトップレベルのフェローたちとの研究生活はとても充実したものであり、今後の国際学会で彼らと再会できる日々を楽しみに待っています。

【生活面】

子ども 3 人を含めた家族 5 人でオーストラリアのブリスベンでの海外生活でした。ブリスベンはオーストラリア第 3 の都市であり、クイーンズランド州の州都です。中心部にはブリスベン川を挟んで北と南にビルが立ち並んでおり、自然と融合した素晴らしい街並みです。中心部を少し離れれば、自然に溢れたオーストラリアならではの広大な景色が広がっていました。我が家は古い家ではありましたが、日本では考えられない程の広い庭付きの一軒家を借りて生活しました。

オーストラリア特にブリスベンでは、人口の急激な集中増加によって家不足が深刻化しています。そのため、我が家には最大 3 名の日本人シェアメイトを募集して、同じ屋根の下で家族同様に生活をしていました。海外で苦悩をしている者同士の強い結束で結ばれ、海外で暮らす日本人シェアメイトらの人生に深く関わったことはとても興味深かったです。

私の 3 人の子どもたちはそれぞれ現地の小学校・幼稚園・保育園に通いました。日本でもインターナショナルスクールに通っていましたが、やはり海外の現地校に通うと英語力は飛躍的に向上しました。私が話す英語は子どもたちから発音を訂正されるばかり、長男はいつも妻の通訳となっていました。英語力に限らず、髪や肌の色が違う人々に会い、国際色豊かな友だちを作ること、彼らの人生にとって貴重な経験となったはずです。子どもの吸収力はスポンジのようで、人

生の早い時期に海外経験を積めたことは、私から見ても羨ましい環境でした。

【最後に】

研究面・生活面において、かけがえのない時間を海外で過ごさせて頂きました。帰国後は、医局

の人事にて沖縄県立南部医療センター・こども医療センターの救命救急センター長を拝命いたしました。今後も福岡大学及び日本の ECMO 発展に貢献していく所存です。今回、福岡大学医学部同窓会の在外研修制度にて留学の援助を頂けたことに、心より感謝申し上げます。



アメリカ在外研修報告

福岡大学医学部 医学科 岩 下 侑央莉 (M1)

今年の夏、ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院(Massachusetts General Hospital, MGH)Immunobiology Laboratory(Faustman LAB)に短期留学させていただきました。まだ医学部1年生ということもあり、今回の留学の目的は主にアメリカでの実際のLABの様子や雰囲気を知り、将来につなげるということでしたが、2024年4月から留学中の橋口志保先生のサポートの下で学びの多い時間を過ごすことができました。

私は入学当初より海外での研究や臨床に興味があり、漠然としたイメージの中で日々過ごしていましたが、今回の留学を通して自分の将来目指すべきことやこれからの自分に必要なことなどを明確にすることができました。

今回の留学は渡米期間が約一週間、実際にLABの見学を行った期間は3日間と非常に短い期間ではありましたが実際に見学させていただく中で日本との違いなどを多く感じました。今回訪れたのはMGHのメインホスピタルではなく研究施設を訪れましたが、非常に規模が大きく様々なLABが複数の建物に集まっており、今回の留学でも橋口先生がほかの日本人の先生方にお声がけしていただきほかの二つのLABやアニマルセンターの見学もさせていただきました。非常に規模が大きいためそこで働いている人の数も多く、世界中の様々な地域から集まっています。また、大学卒業後、医学部や大学院などそれぞれの目指す道へ行くまでの期間で、テクニシャンとして多くの若い人が働いており、将来を evidencing 自分のキャリアについて明確なビジョンや高い向上心を持っていることに驚きました。

また、決まった時間に研究しているわけではなく、それぞれが自分のライフスタイルやタスクに合わせて動いていることも印象的でした。今回の見学ではミーティングの見学もさせていただきました。その中で感じたことは、一人一人がしっかりと意見を持っていて、またそれをちゃんと周りに共有して、チームとして議論が活発だったことです。また、普段は個人個人がそれぞれに自分のタスクに集中して取り組んでいますが、しっかりとチームとして一つの目的に取り組んでいたことも印象的でした。今回の見学では実験の様子や解析の様子などを主に見学させていただきましたが、初めて見ることや知ることが多くとても刺激的なものでした。それもあって、3日間で普段1か月で読む文献と同じくらいの数の文献を読みました。そのくらい実際の研究の様子は自分が思っているよりも知らないことや興味深いことが多くありました。橋口先生にはアメリカでの働き方や実際の生活についてたくさん話を聞かせていただくことができました。日本で研究していた時との違いなど自分のこれからの将来設計にも非常にためになるものでした。

また、土日にはボストン市内の様々な病院を見て回りました。実際に病院で働いている様子やボストン市内を歩いている多くの医療従事者を見ることができ、非常に有意義な時間になりました。

今回の留学を通してしっかりと自分の考えていることを伝える力が必要だと感じました。自分の実験のプランや何が必要で目的を達成する

ためにどのようなプロセスを考えているのかなど、自分の考えを明確にして伝えることが必要だと感じます。私自身、自分が考えていることや頭の中にあることなどを言語化していくことや自分の考えを相手にわかるように伝えることを苦手としているので、これからの学生生活で少しでもその力を身に着けられるように努力していくことが大事だと考えます。

最後になりましたが、今回の留学にあたり私にお声がけしていただき留学の機会を与えてくださった再生・移植医学講座の小玉医学部長、MGHで受け入れていただきお世話になった橋口志保先生、橋口先生のご家族の皆様、そして在外研修援助のご支援をいただいた烏帽子会の先生方、ありがとうございました。今回の留学を糧にして今後の学生生活に生かしていきたいと思えます。



会員寄稿

岩崎宏名誉教授瑞宝中綬章受章祝賀会を終えて

福岡大学医学部同窓会副会長 竹下盛重 (3回生) (済生会八幡総合病院 病理検査科 部長)

本年も大変暑い夏になりましたが、10月下旬に入り秋を感じる様になりました。

この度、岩崎宏名誉教授が昨年秋に瑞宝中綬章を受章されました。岩崎宏先生は昭和53年に九州大学より福岡大学医学部病理学教室に助教として赴任され、37年間在職されました。この間、病理学教授、病理部部长として多大なる症例を真摯に正確に診断され、臨床医より絶大な信頼を得ていました。学部内では、平成17年に医学部長に就任され、学生の目線に立った教育と重要部門への卒業生登用を推進し、教育改革の先駆けをされました。学外では、平成20年に日本病理学賞を受けられ、総会にて「軟部腫瘍の病態 一日常の診断から実験的探索へ」と題し宿題報告をされています。今回の叙勲は、永年にわたる福岡大学での教育、診療、研究、医学会へのご功績に対する受賞であり、本大学、医学部、同窓会として大変栄誉なことと思われまます。本受賞に際して、コロナ禍の折、8月24日にささやかではありますが、祝賀会をさせていただきました。奥様、朔啓二郎福岡大学名誉学長、小玉正太学医学部長、岩下明德元筑紫病院長に来ていただき、一緒に仕事

されました諫山照刀先生、城崎洋先生(2回生)、渡辺良二先生(8回生)、江本精先生や西尾淳先生(18回生)、病理学教室・病理部で仕事しておりました方々と共にお祝いをしました。皆様より岩崎宏先生の研究に対する厳しい姿勢、苦労話やウイットに富んだ話をいただき、和気あいあいとし心温まる祝賀会が出来ました。岩崎宏先生は今でも病理診断に携っておられますが、今後の先生、ご家族の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

令和6年11月吉日

岩崎宏先生瑞宝中綬章受章祝賀会世話人

竹下盛重(3回生)、鍋島一樹(特別会員)、濱崎慎(20回生)



支部だより

筑後支部便り

筑後支部長 宿 里 芳 孝 (医療法人宿正会 宿里医院院長 10 回生)

令和6年6月1日(土曜日)に久留米ハイネスホテルにて令和6年度福岡大学医学部同窓会筑後支部総会を開催いたしました(例年6月に開催しておりますので、たくさん参加していただければありがたいです)。今回もご多忙のなか小玉正太同窓会会長・医学部長(13回生)に参加していただき、さらには和田秀一同窓会副会長・心臓血管外科教授(13回生 私事ですが、藤木荘という医学部の寮の後輩で、2年前に重症僧帽弁閉鎖不全症に対するMICS手術をしていただき、まったく逆流もなく、何と術創は助間に4.5cmしかありません)にも参加していただきました。また、講師として北島 研医学教育推進教授(21回生)に来ていただき、「福岡大学医学部の医学教育と烏帽子会」という演題でご講演をしていただきました。北島先生のペンシルベニア大学留学時の話やご専門の循環器の

話、そして医師国家試験を含めた医学教育についていろいろな工夫をされているのがよくわかる講演でした。こんなに同窓生教授たちが頑張っているのですから、学生たちにも頑張っていただき、母校の名を上げようという医師国家試験合格率を出していただきたいものです。

また、今後も子弟の福大医学部受験が続くと思います。多くの福大卒の教授たちと顔見知りになり、この親の子女なら医師になるための性格に問題ないとわかっていただくためにも(成績も問題ないと良いのですが……(笑))同窓会への参加をお願いいたします。同窓会筑後支部総会に出席して良かったと思っただけのように役員一同努力しております。何よりも、烏帽子会会長、副会長には毎年出席を依頼し、実際に出席していただき、医学部受験、国家試験、医学教



育など現場の声を聞かせていただいております。他の支部でもそうだと思いますが、このことが支部総会に出席していただく最大のメリットだと思います。

参加して良かったと思えるように頑張りますので、受験期を迎えた子女がおられる会員の先生はもちろん、そうでない会員も参加をお願いいたします。

ところで、本部年会費支部徴収は100%が維持され、さらに支部年会費もたくさんの会員から納入していただいておりますことを深く感謝いたしますとともに心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

最後に、亡くなられました吉永陽一郎先生（9回生）のご冥福をお祈りいたします。



宿里芳孝先生の医師会長就任祝賀会

筑後支部 医療法人 浅倉整形外科医院 理事長 浅倉敏明 (8回生)

令和6年6月に大川三潞医師会の医師会長に就任した宿里芳孝先生(10回卒 宿里医院院長 現筑後支部支部長)の祝賀会を筑後支部の有志で行いました。出席者は長井健祐先生(12回卒 長井小児科医院院長 現副支部長)、関幸彦先生(12回卒 行徳内科・胃腸科・循環器科診療所院長 現評議員)、山内祥弘先生(12回卒 やまうちクリニック 院長 現評議員)と私(浅倉整形外科医院院長 前支部長)の5名です。6月28日に久留米市内の魚料理店で和気藹々と開催しました。宿里先生は母校の第5内科に入局しその後お父様の急逝のため卒業後6年目の平成4年に内科を継承しています(このことは福岡県医報2024年7月号に先生自ら記載しています)。以来大川地区の患者さんから信頼される開業医として地域医療に貢献されてきました。

さて私は宿里君とは30年程前に同窓会筑後支部総会で初めてお会いしました。一見大変真面目そうであり私とは人種が違うかなと思ったのが第一印象でした。しかしその後は先輩後輩の間柄として意気投合し、当時私が主催していた久留米医師会野球部に入部してもらいました。毎年行われる久留米三師会ソフトボール大会、県医ソフトボール大会などに参加し大学時代の軟式野球部で培った実力を遺憾なく発揮され、いくつかのMVPも受賞されました。また彼は酒豪でもあり酒に酔ってのエピソードには事欠きません。「宿里が私の後輩でよかったな～」と思ったほど強烈な個性の持ち主でもあります。ちなみに私



朝倉より宿里先生へ記念品の贈呈

は今でも宿里君をはじめ後輩諸君を呼び捨てにしています。これは学生時代ラグビー部でお世話になった初代脳神経外科教授故朝長正道先生の教えであります。1998年の脳神経外科教室同門会会報に「呼び捨て」との表題で先生が文章にされております(整形外科の私に2018年脳神経外科教室より先生の寄稿集を進呈していただきました)。

また30数年前になりますが筑後支部設立のためご尽力された初代評議員の大城昌平先生(1回卒 大城医院院長)とともに私が評議員になりましたが、先生がご退任された後に宿里君を推薦しました。彼は肅々とそして時に大胆に職務を全うしその後筑後支部長になり現在に至っています。その宿里君が同窓会活動と平行して2012年より長きにわたり大川三潞医師会の理事を勤め上げこの度医師会長に就任しました。今までには大変なご苦労があったことでしょう。我々筑後支部の誇りであり、見事であります。

今後宿里君を先頭に、参加した3名の後輩達が筑後支部の発展のために活躍してくれると思っています。

最後に宿里先生、医師会長就任誠におめでとうございます。さらに大変な立場ですがどうぞ体に気をつけて頑張ってください。健闘を祈ります。



前列左より宿里先生、朝倉
後列左より山内先生、関先生、長井先生

学生会員支援報告

新入生歓迎会

福岡大学医学部 再生・移植医学教授 小玉 正 太 (13 回生)

本年5月15日、ホテルニューオータニ博多において新入生歓迎会を開催しました。当日は、学生、クラス担任、事務課・医学教育推進講座・情報センターの職員の方々、OBOGにご参加いただき総勢 151 名による祝宴となりました。

初めに、学部長であり、同窓会会長でもある小玉の挨拶があり、その後担任、職員の方々、学生もステージに上がり一言ずつスピーチをいただきました。いささかはしゃぎ過ぎのところもありましたが、賑やかな会となりました。



小玉会長挨拶



クラス主担任 濱崎慎教授



事務課の方々



1年生自己紹介



歓談



《 有意義な 6 年間でありますように… 》

令和6年度 M4CBT 激励会の報告

福岡大学医学部 医学教育推進講座 主任教授 北 島 研 (21 回生)

2024 年 7 月 25 日、医学部 RI 講義棟第 2 中講堂にて開催した烏帽子会主催 M4CBT 激励会のご報告です。前日には前期の各科試験も終了し、当日朝からは予備校 TECOM 講師による第 1 回 CBT 対策特別講義が行われていました。

M4 学生 87 名の参加により、17 時から烏帽子会主催の M4 CBT 激励会開始となりました。同窓会長の小玉正太医学部長のご挨拶の後、M5 学生 4 名の講演を頂きました。M5 学生の互選にて中山 裕太さん、犬塚 夕貴さん、地主 大起さん、田崎 勇一朗さんの順で、それぞれの経験を基に CBT 対策や勉強法、受験に向けた生活の仕方などを語ってくれました。

続いて副担任 5 班 腎臓・膠原病内科学 伊藤 建二先生(24 回生)、7 班 歯科口腔外科学 吉野 綾先生、7 班 腎泌尿器外科学 中村 信之先生(11 回生)から直接激励の言葉を頂き、当日参加が叶わなかった M4 担任の先生からは予め頂いていたメッセージをご紹介します。

最後に M4 の浅野 大さんから学生代表としてお礼の挨拶を頂き、今年度の CBT 激励会は終了となりました。

終了後には烏帽子会から提供頂いた「柳川屋 うなぎせいり蒸し弁当」を班担任の先生からのオリジナルメッセージカードを添えて、担任の先生から班員ひとりひとりに声をかけながら手渡しました。激励会終了後も講演した M5 学生にいろいろな質問をする M4 学生の姿が見られ、先輩から後輩への試験対策法がしっかりと伝授されていました。

令和 5 年度からの共用試験公的化により、M4 学生は診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)を行うために、「知識」の修得状況を評価する CBT の他に、「技能」や「態度」を評価する臨床実習前客観的臨床能力試験(臨床実習前 OSCE)に合格し、臨床実習生(医学)の証を保持しなくてはなりません。福岡大学での共用試験は 10 月 25 日に臨床実習前 OSCE、11 月 1 日に CBT が実施されました。

CBT はコンピュータ画面に問題がランダム提示さ

れる、320 問の多選択肢択一型試験です。問題難易度を考慮した IRT(項目反応理論)による標準スコア 396 が全国統一の合格基準とされています。福岡大学の試験合格基準よりやや低めですが、例年と同様にしっかりとした CBT 対策が求められ、福岡大学でも予備校主催の CBT 模試や特別講義に参加しています。CBT 当日は、試験の公的化により受験生は長時間の拘束されるため、昼食も M4 学生全員統一として、烏帽子会より提供頂いた「おにぎり弁当」を配布し、受験生の負担軽減を図っております。

また臨床実習前 OSCE では受験者が一定時間ごとに小試験室を回り、患者さんとの面接や、診察の仕方や手技などの課題を、各試験室に配置されている医療系大学間共用試験実施評価機構から認定された他大学を含む評価者の前で次々に実施していきます。

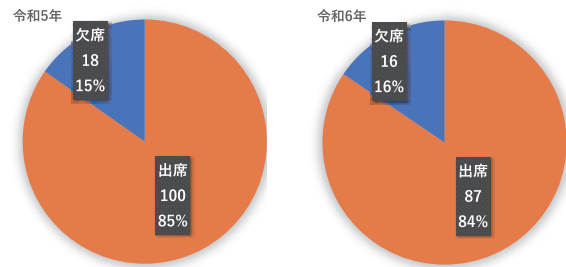
このような厳正な試験に合格できる学習法を修得するため、今年度の M4CBT 激励会においても、先輩 M5 学生や班担任の先生から密度の濃い、そして即効性のあるメッセージを M4 学生に届けることができたと感じています。M4 学生からの激励会終了後アンケートでは、78% の学生が非常に満足したと感じており、92% の学生が夏休み前の激励会の開催に賛同をしてくれていました。激励会での先輩メッセージにより、夏休みの学修計画を立て、M6 での臨床研修病院マッチングの際に役立つよう頑張りたいという意欲にあふれていました。CBT 成績の向上に烏帽子会が少しでも力添えすることができるよう、これからも烏帽子会主催 CBT 激励会の役割を熟慮して参りたいと思います。

末筆ではございますが、ご参加の M4 学生の皆様、ご発表頂いた M5 学生の皆様、お忙しい中激励のメッセージや直接会場へ足をお運び頂いた班担任の先生、臨床実習中の M5 学生に激励会参加を快くご許し頂いた診療科の先生方、会場運営を行って頂いた医学部事務課・医学教育推進講座の皆様、そして激励会と試験日の両日ともお弁当の提供を頂いた烏帽子会の皆様に心より感謝申し上げます。

式次第

1. 会長・医学部長挨拶
2. 理事・教務委員挨拶
3. M5先輩4名からのCBT対策経験談講話
4. M4班担任の先生からの激励ご挨拶
5. M4学生代表挨拶
6. うなぎせいろ蒸しお弁当配布

M4在籍者の参加者割合



司会



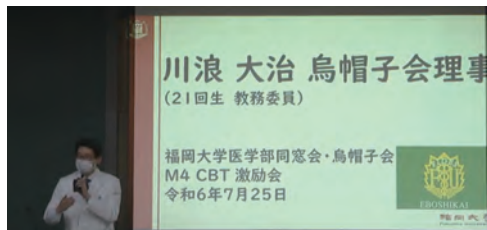
烏帽子理事・医学教育推進講座教授 北島 研 (21回生)

1. 烏帽子会会長挨拶



烏帽子会会長・医学部長 小玉 正太先生 (13回生)

2. 烏帽子会理事挨拶

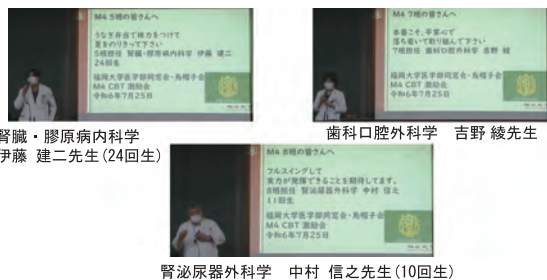


烏帽子会理事・医学科教務委員川浪大治先生 (21回生)

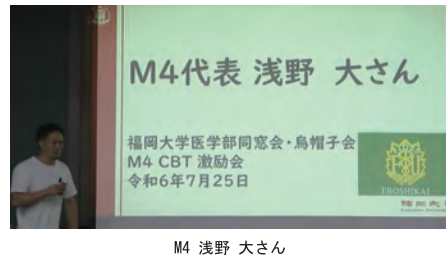
3. M5先輩からのCBT対策経験談講話



4. M4班担任の先生からの激励ご挨拶



5. M4学生代表挨拶



M4 浅野 大さん

6.うなぎせいろ蒸しお弁当配布 (班担任の先生のメッセージカード入り)



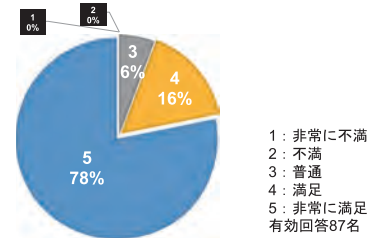
M4班担任の先生からのメッセージカード

班	担任(卒業回)	講座	メッセージ
1	立花 克郎先生	解剖学	M4は勝負の年です。ガンバってください!!
2	秋吉 浩三郎先生	麻酔科学	CBT頑張ってください。病棟で待っていますね!
3	佐藤 寿彦先生	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	うなぎ食べて頑張ってください!!
4	杉原 充先生	心臓・血管内科学	毎日少しずつ余分に頑張る!! I know you can do it.
5	伊藤 建二先生	腎臓・膠原病内科学	うなぎ弁当で体力をつけて夏をのりきってください。
6	塩飽 洋生先生	消化器外科学	CBT頑張ってください。病棟で待っています!
7	吉野 綾先生	歯科口腔外科学	本番こそ、平常心で落ち着いて取り組んで下さい。
8	中村 信之先生	腎泌尿器外科学	フルスイングして実力が発揮できることを期待しています。
9	漆山 大知先生	産婦人科	しっかりと準備して、当日は自信を持って臨んでください。
10	桑野 孝志先生	循環器内科	CBT頑張ってください。病棟で待っています!

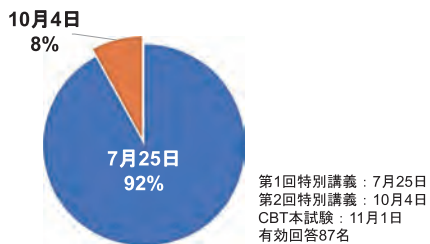
激励会終了後：先輩M5学生への質問タイム



M4 学生のアンケート M4CBT激励会の希望開催時期



M4 学生のアンケート M4CBT激励会の希望開催時期



M4 学生のアンケート CBTに向けた目標 (抜粋)

CBTに向けた目標 (自由記述)
1 CBTまで時間がないということを実感しました。夏休みにも1 日少しでも勉強したいと思います。
2 マッチングにも影響があるためますます頑張ろうと思いました。
3 学校の試験に追われて、CBT の勉強に本腰を入れられてないので、この夏しっかり頑張りたいです。
4 今日から勉強ははじめようと思った。夏休み は毎日問題を解くように意識したい
5 学年TOP10目指します。
6 自分なりの勉強法を確立し、最後まで諦めずに頑張ります。
7 毎日コツコツ頑張って、合格したいと思いました。
8 睡眠をとってストレスを溜めず、自分は絶対 対に受かるという心意気を持って頑張りたいと思います。

M4 学生のアンケート CBT激励会の感想 (抜粋)

感想 (自由記述)
1 具体的にどのような勉強をすれば良いか分からなかったし、私もメンタルがとても弱かったので、勉強面でもメンタル面でも有意義なお話をたくさん聞くことが出来て本当に助かりました。
2 5年生の先輩方のお言葉は失敗談も含めてとてもためになりました。先生方からもありがとうございます。勇気づけられました!!
3 CBTの実感がふつと湧いてきました。激励ありがとうございました
4 思っていたよりも時間がなくて焦りを感じた。夏休み前に具体的な話が聞けてよかった。
5 貴重な体験談や激励の言葉をいただき、ありがとうございました。お弁当もありがとうございました。
6 夏休みの過ごし方を考え直すとてもいい機会になりました。
7 烏帽子会の皆様：人数分の鯉を用意するという大変なことをしてくださり、とてもありがたかったです!

11月1日 CBT当日のお弁当・飲料水・ゼリー配布



試験当日は実質30分ほどしか昼休憩が無いので、烏帽子会からご提供頂いた、おにぎり弁当と飲料水、エネルギーゼリーの「烏帽子会セット」を受験生待機室の指定座席にて各自黙食して頂きました。

令和6年度 M1 白衣授与式のご報告

医学教育推進講座 教授 北 島 研 (21 回生)

2024年9月2日月曜日午前9時より、M1 白衣授与式を行いましたのでご報告致します。この白衣授与式は、烏帽子会主催で1年生の行動科学I(看護実習・CC体験)という科目の冒頭に行われており、医学科入学後初めて病棟実習を行うための式典となります。烏帽子会長の小玉正太医学部長(13回生)よりご挨拶を頂いた後、福岡大学病院長の三浦伸一郎先生(11回生)の代理で、副病院長の平井郁仁先生(14回生)にご挨拶を頂きました。

M1 学生は、白衣から透けて見えないよう白の無地Tシャツ、及び黒のスラックス、黒の靴下、黒の靴を着用して会場入りしました。白衣授与の際は、烏帽子会正会員のご子弟・ご子女であるM1 学生7名に代表としてご協力頂き、前方に並んで当日ご参加頂いた烏帽子会の学内教授より自分の名前刺繍入りケーシー白衣を授与頂きました。このケーシー白衣はこれまでの

綿100%の生地よりも柔らかくてシワになりにくく、着心地が良いと評判です。M1 学生代表として、田中美羽さんより烏帽子会への御礼の挨拶を頂いた後、M1 学生皆で白衣を着用し写真撮影を行いました。午前中は白衣着用のまま看護部による実習オリエンテーションを受講し、午後からは令和6年5月に開院したばかりの新しい本館病棟を含む福岡大学病院各病棟での実習が始まりました。配属は計3日間で、看護実習を2日間、残り1日はM5 学生とペアになり屋根瓦式で指導頂くクリニカルクラークシップ(CC)を体験しました。実習は看護師さんの業務やM5 学生のシャドーイングを行う見学型実習ですが、積極的に患者さんと話をして、脈拍数測定を行い、病棟に勤務する医師・看護師以外のスタッフにインタビューして、病棟実務を理解して頂くようにしました。患者さんや担当看護師さん、指導頂いたM5 学生からも評価表を頂く360



度評価を行いました。実習最終日午前には、実習病棟班ごとに話し合っまとめを作成し、午後からは M1 学生、看護部、班担任の前で発表会を行い、実習で学んだことの振り返りを行いました。実習における M1 学生の感想は、多職種連携や患者さんとのコミュニケーションの楽しさを学び、患者さんからは「いい医師になるよう頑張れ」と激励の言葉を頂いた M1 学生も居り、M4 からの臨床実習に向けた自分の課題を見つけて学習意欲を向上させるという科目目標に到達できた

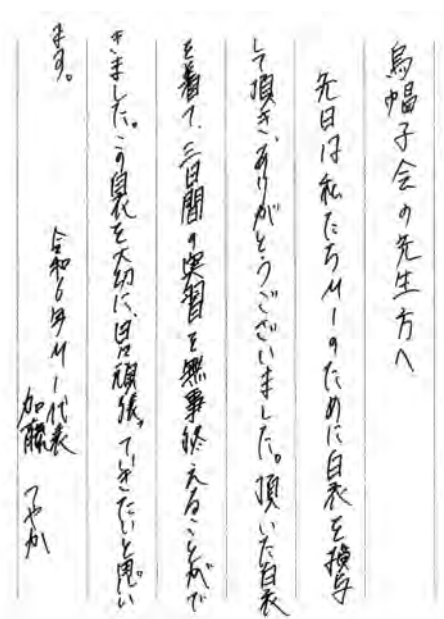
のではないかと感じています。実習終了後には M1 学生を代表して、卒業生のご子女である加藤つやかさんよりお礼状を頂いておりますので、併せてご報告致します。

末尾になりましたが、看護実習の準備や運営を頂いた看護部の皆様、多職種インタビューにご協力頂いた病棟スタッフの皆様、CC 体験実習に際しご指導を頂いた M5 学生の皆様、そしてケーシー白衣をご提供頂いた烏帽子会の皆様に感謝申し上げます。



1 年生 5 年生

実習前に控え室で集合し、クリニカルクラークシップへ向かいました。



1 年生代表／後列左から山田君、浦田君、北川君
前列左から田中さん、足立さん、松本さん
(加藤さんは実習中であつたため、撮影は欠席)

キャンパス便り

第 23 回日本内分泌学会九州支部学術集会 若手奨励賞 (YIA) 受賞報告

福岡大学医学部 医学科 巻 幡 健 介 (M5)

私は M3 の夏から内分泌・糖尿病内科学講座で研究に携わらせて頂いています。もともと基礎医学に興味はありましたが、自分が研究をするとは想像していませんでした。しかし、講義中に楽しそうに研究の話をする先生方の姿やラボカンファレンスで議論される先生方の姿を見て「研究内容を理解したい、自分でも考えてみたい」と思うようになり、川浪大治教授の許可を頂き研究を始めました。

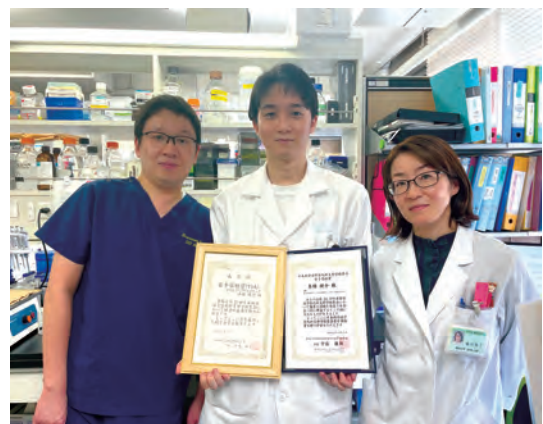
ゼロからスタートの私に、ピペットの使い方から始まり、アガロースゲルの作り方やプライマーの設計法、PCR の手順など、基本的なことを一つ一つ丁寧にご指導いただきました。実際に自分で取り組んでみて、1 つのデータを得るためには予備実験を含め多くの実験が必要で、想像以上に地道で時間のかかる作業だと実感しました。

いくつか実験手技を学び少し慣れてきたころ、いつものように PCR、電気泳動を行い、ゲル撮影をしたところ、出るはずのないネガティブコントロールにバンドが現れました。コンタミの可能性を考え PCR で使用した酵素や水を新しいものに変えて再挑戦しましたが、再び失敗し動揺しました。自分では原因がわからず、アドバイスを頂きながら何度も試行錯誤を繰り返しました。最後にきれいな写真が撮れたときは心の底から安心して感動したのを今でも覚えています。この経験を通じ、プロトコルには書かれていない“正しい結果を得るためのコツ”が各工程の間に存在することを学びました。また、失敗したとき何が原因なのか、何を変えればうまくいくのかを考えるためには、その手技の原理、使用する酵素の役割、特性など多くの知識が必要であることを学びました。

それから自分にもテーマを与えていただき、この 2 年間は主に X 染色体顕性低リン血症性く

る病 (XLH) の研究に取り組んできました。XLH は PHEX 遺伝子の機能喪失型変異が原因とされていますが、PHEX 蛋白の機能はまだ解明されておらず、根本的な治療法は確立されていません。症例研究の積み重ねがこの病気の理解を深め PHEX 蛋白の機能解明にも繋がると考えています。その研究成果を第 23 回日本内分泌学会九州支部学術集会の若手奨励賞 (YIA) 選考セッションで「遺伝学的検査を行った X 染色体顕性低リン血症性くる病 (XLH) の 4 例」として発表させていただくチャンスに恵まれました。研究室の代表として発表する意識を学び、自分の仕事に対する責任感が一層強まりました。最終的に、若手奨励賞 (YIA) を受賞させていただきました。

また、福岡大学医学部同窓会の皆様これまでの私の活動を評価していただき、烏帽子会賞を頂戴いたしました。今回の受賞は今後の私の活動に対する期待も込められたものと認識しています。その期待に応えられるよう今後も精進してまいります。この 2 年間、研究活動を通して様々な面で大きく成長させていただいたと感じており、このような素晴らしい環境に恵まれたことを幸運に思っています。この場をお借りして川浪大治教授、高士祐一先生をはじめ研究室の先生方、スタッフの皆様、また手取り足取り指導して下さいた豊川恭子先生に感謝申し上げます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



九山柔道部門男子団体戦優勝のご報告

福岡大学医学部 柔道愛好会 小林 友輔 (M3)

福岡大学医学部医学科第3学年柔道愛好会主将の小林友輔です。長野県出身です。

この度、第63回九州・山口医科学生体育大会(通称九山)柔道部門で男子団体優勝を勝ち取ることができました。現在柔道愛好会は医学科18人、本学13人の計31人で活動しております。学年や学部が違う生徒が多い中でも時間を効率よく使い、日々練習に励んでおります。柔道愛好会につきまして少し紹介させていただきますと、私たちの部活動は過去に何度も九山で優勝をしており、九州の柔道界の中でも屈指のチームであり伝統のある部活動です。しかし近年は柔道人口の減少やCOVID-19渦でなかなか部員確保が難しく、2013年の九山優勝を最後に優勝が遠退いておりました。そのような中でも現顧問の内分泌・糖尿病内科学講座の川浪大治教授をはじめ、前顧問の竹下盛重先生、OB会長の黒岩大三先生を中心にOBの先生方に多くのご支援を頂き、COVID-19後は部員確保、練習確保に努めることができました。また多くのOBの先生方がOB会にご参

加してくださり、先生方の中には日々の練習にも顔を出してくださる先生方もいらっしゃいます。そのような手厚いご支援をいただき、この度優勝を勝ち取ることができました。

医学部での勉強は学習量・実習量が学年を重ねるごと増え、部活動に励む時間は進級するごとに少なくなっていきます。また医学の発展は著しく、能動的に新しい知識を獲得していかなければなりません。勉学に勤しむことは当然のこととし、これからも仲間と共に日々研鑽を積んで参りたいと思います。



水泳愛好会

福岡大学医学部 水泳愛好会 瀬口 絢士 (M4)

我々水泳愛好会は月金の週に2回、本学のプールで活動しています。現在愛好会には男女50名が所属しており、皆それぞれ目標を設定して練習に楽しみながらも熱心に取り組んでいます。

今年行われた第63回九州山口医科学生体育大会 男子50M バタフライ、50M 自由形1位また、第76回西日本医科学生総合体育大会 男子50M、100M 自由形1位と、どちらも昨年に続き2冠を達成することができました。昨年樹立した自身の大会新記録を今年は更新することができませんでしたが、皆様の応援もあり2連覇を果たすことができ嬉しい限りです。

このような形で福岡大学医学部の名が学業の面だけでなく、スポーツの面でも残ることに微力ながらも貢献でき嬉しく思います。

今年、私は四年生だったため医学生の関門の一

つであるCBTやOSCEがあり勉強も忙しい学年でしたがその中でも上記のような結果を残し、さらにどちらの試験も本試験で合格することができました。文武両道は福岡大学医学部の理念の一つですが、それぞれは独立した要素ではなく互いに深く影響しあっていると私自身も考えています。つまり今の自分の学業の成績は単純に勉強だけでなく、こうした部活動の練習や結果が基盤となっています。そのため来年以降もどちらか片方だけでなく、どちらの努力も惜しまずやっていきたいと思えます。

より良い結果をどちらの分野でも残し、私自身の将来のためだけでなく福岡大学医学部にも貢献できるよう頑張ってまいりますので、私を含め水泳愛好会、さらには医学部一同をあたたく見守っていただけると幸いです。引き続き応援よろしく願いいたします。



ラグビー部 50 周年記念 OB 総会

ラグビー部 OB 会々長 池田 耕 一 (14 回生/池田脳神経外科院長)

1972 年 4 月福岡大学医学部創設と同時にラグビー部が誕生しました。本来ですと 2022 年に創部 50 周年を迎えたのですが、コロナ禍もあって 50 周年祝賀会が延期され、2023 年 10 月 28 日博多区のザ・ロイヤルパークホテル博多で行われました。2003 年にラグビー部 OB 会が設立されましたので、ちょうど OB 会設立からも 20 年の節目でもありました。

同日は遠路はるばるお越しになられた OB も多く、また現役幹部(医学部 3 年生)にも出席してもらいました。また、九州学生ラグビーリーグ戦にも加入しているため、創部以来医学部以外の他学部からの参加者も多くいらっしゃり、現在監督をお願いしている眞崎弘太さん(法学部)を始め、国松 真さん(法学部)なども出席していただきました。

OB 総会は、5 代目 OB 会々長であります山内祥弘先生(12 回生)の挨拶で始まりました。まず、直近で亡くなられた OB の方々、小金丸史隆先生(3 回生)・大塩善幸先生(4 回生)・新原勇三先生(他大学卒業)への黙祷を行いました。その後、初代 OB 会長で現在は OB 会顧問の二見喜太郎先生(1 回生)ならびに高木忠博先生(1 回生)の挨拶があり、毎年の OB

会で報告される会計報告・活動報告・会長交代を含めた OB 会役員改選などの議事が行われ無事に異議なく承認されました。その後、祝賀会が始まりました。

祝賀会では、参加していただいた先生方の近況報告が行われました。歓声・笑い声の絶えない会で、現役時代は怖かった先輩方も柔らかな表情で、先輩・後輩関係なく、同じ楯円球を追った仲間として、更に世代を超えて親近感が湧いたものと思います。

最後にラグビー部恒例の円陣で肩を組みあい、福大節を高らかに歌い上げ、記念撮影を行い、盛会のうちに終了致しました。

ラグビー部 OB 会では、今年度中に 2004 年に作成した創部 30 周年記念誌について、50 周年記念誌の発刊を予定しております。ラグビー部 OB の先生方には是非、近況などを御一報いただければと存じます。ikedansc@csf.ne.jp までお待ちしております。

また、医学部ラグビー部 OB 会にはグループ LINE もございます。そこでは現役ラグビー部員の試合日程・結果報告ならびに新歓、追い出しコンパなどの情報も随時更新しております。OB の先生方には是非グループ LINE にも加入していただきたいです。



福岡大学医学部同窓会諸表

令和5年度収入支出決算

区分	科 目	R5 年度予算	R5 年度決算	R5 決算予算比較	R5 決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	13,817,079	13,817,079	0	
	会 費 収 入	30,940,000	31,180,618	▲ 240,618	入会費：5,162,926 学年会費：4,420,183 年会費：21,411,463 準年会費：186,046
	保険工物件広告料	250,000	250,000	0	
	雑 収 入	20,000	1,044	18,956	T シャツ, 預金利子
	預り金収入	40,000	85,908	▲ 45,908	給与源泉徴収
	総会27回生寄付	0	140,000	▲ 140,000	
	合 計	45,067,079	45,474,649	▲ 407,570	
支 出	給 与	3,330,000	3,254,820	75,180	
	旅 費	2,400,000	3,188,835	▲ 788,835	役員旅費：633,720 支部総会旅費：663,465 評議員会：373,000 私大連絡会旅費：945,980 通勤旅費：175,180 その他：397,490
	事務用品費	400,000	346,499	53,501	
	印 刷 費	3,960,000	2,910,521	1,049,479	会報：2,641,461 封筒：184,800 その他：84,260
	通信運搬費	2,200,000	1,554,691	645,309	電信電話：66,531 会報：996,902 切手葉書：123,980 その他：367,278
	設備工事費	400,000	0	400,000	ホームページ更新料
	什器備品費	240,000	349,222	▲ 109,222	パソコン：294,800, CANON インクジェット複合機：49,670 キーボード：4,752
	事 業 費	21,384,000	16,547,575	4,836,425	総会費：170,152 研究奨励賞：1,997,737 在外研・修援助金：400,000 学生会員支援：3,659,622 国試対策費：937,450 学生行事援助：180,000 支部活動費：3,699,751 支部祝儀：180,000 大学院生への援助：720,000 M1M5 白衣贈与：605,123 慶弔費：2,547,740 学会寄付：1,450,000
	会 議 費	2,800,000	1,799,047	1,000,953	理事会：178,891 評議員会：750,628 各種会議他：234,183 私大連絡会：635,345
	公 租 公 課	10,000	10,000	0	収入印紙
		71,000	71,000	0	福岡県民税：21,000 福岡市民税：50,000
	雑 費	2,033,000	1,960,972	72,028	税理士報酬：33,000 弁護士登録料：66,000 渉外費：48,640 業務用グッズ：11,565 その他：988,294 慶弔費：813,473
	預り金支出	40,000	82,248	▲ 42,248	給与源泉徴収税
引当金積立	3,000,000	0	3,000,000		
借入金返却	0	0	0		
予 備 費	2,799,079	0	2,799,079		
	合 計	45,067,079	32,065,430	13,001,649	
	収 支 差 引	0	13,409,219	▲ 13,409,219	

令和5年度残金処分

残金額 (収支差引額)	13,409,219 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	0 円
事業積立金積立	0 円
次年度繰越	13,409,219 円

令和5年度特別会計決算

	事業積立金	奨学金積立金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	87,322,959	14,829,141	15,881,690	118,033,790
本年度増加額	7,050,000	155,958		7,205,958
本年度受取利息	461			
本年度減少額	▲ 20,330,495		▲ 505,800	▲ 20,836,295
本年度未決算額	74,042,925	14,985,099	15,375,890	104,403,914

令和5年度事業報告と令和6年度事業計画

項目	年度		令和6年度事業計画	
	令和5年度事業計画 予算(A)	令和5年度事業報告 実績(B)	令和6年度事業計画 予算(C)	C-A
① 会報の発行	3,831,350	3,571,505	3,875,250	43,900
② 総会の開催	2,500,000	170,152	2,500,000	0
③ 支部活動援助	2,100,000	3,699,751	2,100,000	0
④ 研究奨励賞	2,000,000	1,997,737	2,000,000	0
⑤ 在外研究援助	2,000,000	400,000	2,000,000	0
⑥ 学生会員支援	3,600,000	3,659,622	4,200,000	600,000
⑦ 白衣贈与	2,000,000	605,123	2,140,000	140,000
⑧ 国試対策費	2,000,000	937,450	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	180,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	400,000	180,000	960,000	560,000
⑪ 学会寄付	1,500,000	1,450,000	1,500,000	0
⑫ 慶弔贈与	300,000	2,547,740	300,000	0
⑬ グッズ作製	0	0	0	0
⑭ 会員名簿発行	5,400,000	5,635	5,400,000	0
⑮ パニックマニュアル発行	0	500,000	0	0
⑯ 奨学金貸与	0	0	0	0
⑰ 縁結び	500,000	0	24,000	-476,000
⑱ 保険コンサルティング	30,000	0	30,000	0
⑲ ホームページ	24,000	0	24,000	0
⑳ 大学院生援助	1,200,000	720,000	1,200,000	0
㉑ 学生医学教育貢献者賞	200,000	0	200,000	0
合計	29,815,350	20,624,715	30,683,250	867,900

令和6年度収入支出予算

区分	科目	R5 予算	R6 予算	R6 年度予算摘要	R5 予算 - R6 予算
収入	繰越金	13,817,079	13,409,219		407,860
	会費収入	30,940,000	31,140,000	入会費：49,580×110人×0.80 ≒ 4,360,000 学年会費：9,797×550人×0.88 ≒ 4,740,000 年会費：9,797×3,400人×0.66 ≒ 21,900,000 準年会費：4,797×34人×0.86 ≒ 140,000	▲ 200,000
	保険コンサルティング広告料	250,000	250,000		0
	雑収入	20,000	20,000		0
	預り金収入	40,000	40,000		0
	仮入金				0
	合計	45,067,079	44,859,219		207,860
支出	給与	3,330,000	3,330,000	パート1名, 短期パート1名	0
	旅費	2,400,000	2,900,000	役員旅費：600,000 評議員会：600,000 私大連絡会：1,000,000 通勤費：200,000円 その他：500,000	▲ 500,000
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印刷費	3,960,000	4,060,000	会報：3,400,000 封筒：500,000 その他：160,000	▲ 100,000
	通信運搬費	2,200,000	2,300,000	電信電話：100,000 会報：1,400,000 切手葉書代：300,000 その他：500,000	▲ 100,000
	設備工事費	400,000	400,000	維持契約費	0
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	21,384,000	22,208,000	総会費：2,500,000 研究奨励賞：2,000,000 在外研修援助金：2,000,000 学生会員支援費：4,200,000 国試対策費：2,000,000 学生行事援助費：960,000 支部活動費：2,100,000 支部祝儀：230,000 M1,M5 白衣贈与費：2,140,000 大学院生援助：1,200,000 慶弔費：300,000 学会寄付：1,500,000 縁結び WEB サイトサーバー：24,000 保険コンサルティング：30,000 WEB サイトサーバー費：24,000 事業予備費：1,000,000	▲ 824,000
	会議費	2,800,000	2,800,000	理事会・会長懇話会：1,200,000 評議員会：800,000 各種委員会：300,000 その他：500,000	0
	公租公課	81,000	81,000	法人県市民税：71,000 収入印紙：10,000	0
	雑費	2,033,000	2,033,000	税理士報酬：33,000 渉外費：500,000 弁護士登録料：66,000 その他慶弔費：1,434,000	0
	預り金支出	40,000	40,000		0
	引当金積立	3,000,000	2,000,000		1,000,000
借入金返却				0	
予備費	2,799,079	2,067,219		731,860	
合計	45,067,079	44,859,219		207,860	
収支差引	-	-		0	

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)

(令和6年10月現在)

	医局長	病棟医長	外来医長
[福岡大学病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀法	中 島 勇 太 ③①	茂 木 愛 ②⑤
内分泌・糖尿病内科	高 士 祐 一	牟 田 芳 実 ③④	横 溝 久
循環器内科	有 村 忠 聰 ②⑧	重 本 英 二 ③⑥	加 藤 悠 太 ③③
消化器内科	船 越 禎 広 ②⑨	古 賀 毅 彦	田 中 崇
呼吸器内科	濱 田 直 樹	春 藤 裕 樹	海 老 規 之
腎臓・膠原病内科	伊 藤 健 二 ②⑤	高 橋 宏 治 ③②	嶋 本 聖
血液浄化療法センター		伊 藤 健 二 ②⑤	
脳神経内科	津 川 潤	井 上 賢 一 ③⑧	合 馬 慎 二 ②③
精神神経科	飯 田 仁 志 ③②	畑 中 聡 仁	原 田 康 平
〃 (ディケア)			吉 村 裕 太
小 児 科	宮 本 辰 樹 ②⑦	古 賀 信 彦 ③⑦	後 藤 綾 子
消化器外科	梶 原 正 俊	内 藤 滋 俊	中 島 亮
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	宮 原 聡	中 島 裕 康	上 田 雄 一 郎
整形外科	瀬 尾 哉 ③①	廣 田 高 志 ③②	柴 田 光 史
形成外科	小 柳 俊 彰	谷 ありさ	森 田 愛
脳神経外科	竹 本 光 一 郎 ②⑥	吉 永 進 太 郎 ③⑥	榎 本 年 孝 ③③
心臓血管外科	桑 原 豪 ②⑦	寺 谷 裕 充 ③①	古 井 雅 人
皮膚科	清 水 裕 毅 ③⑥	大 賀 保 範	佐 藤 絵 美 ③⑩
腎泌尿器外科	松 崎 洋 吏 ②⑦	郡 家 直 敬	岡 部 雄
産 婦 人 科	吉 川 賢 一 ③⑥	漆 山 大 知 ③① (産科)	井 植 大 介 (産科)
〃		重 川 浩 一 郎 ③⑧ (婦人科)	清 島 千 尋 (婦人科)
眼 科	原 田 一 宏	上 野 智 弘 ③④	川 村 朋 子
耳 鼻 咽 喉 科	妻 鳥 敬 一 郎 ③②	妻 鳥 敬 一 郎 ③②	木 庭 忠 士
放 射 線 科	高 山 幸 久	赤 井 智 春 ②⑦	中 根 慎 一 朗
麻 酔 科	三 股 亮 介 ③②	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ②⑥
歯科口腔外科	瀬 戸 美 夏	喜 多 涼 介	吉 野 綾
病 理 部	上 杉 憲 子		
臨床検査・輸血部	高 田 耕 平		
救命救急センター	森 本 紳 一 ③⑤	村 西 謙 太 郎 ③⑤	
総合周産期母子医療センター		瀬 戸 上 貴 資 ②⑥ (新生児部門)	
〃		小 幡 聡 (小児外科)	
総 合 診 療 科	坂 本 篤 彦	鈴 山 裕 貴 ③④	奥 津 翔 太 ③⑦
[福岡大学筑紫病院]			
筑紫病院 (総医局長)	宮 島 茂 郎 ②② (泌尿器科)		
循環器内科	池 周 而 ②④	高 宮 陽 介 ②⑥	松 岡 優 太 ③⑤
内分泌・糖尿病内科	阿 部 一 朗	工 藤 忠 睦 ②③	小 林 邦 久
呼吸器内科	串 間 尚 子	木 下 義 晃	吉 田 祐 士 ③①
消化器内科	小 野 陽 一 郎 ②⑥	八 坂 達 尚 ③②	武 田 輝 之 ③①
脳神経内科			
小 児 科	久 保 田 慧 ③⑤	中 尾 あ い 子	坂 口 崇
外 科	宮 坂 義 浩	小 島 大 望 ②⑥	東 大 二 郎 ①⑤
呼吸器・乳腺外科	吉 田 康 浩	森 下 麻 理 奈 ④①	吉 田 康 浩 ②④
整形外科	坂 本 哲 哉	小 阪 英 智 ③④	蓑 川 創 ③⑩
脳神経外科	井 上 律 郎 ②⑨	井 上 律 郎 ②⑨	新 居 浩 平 ②④
泌 尿 器 科	宮 島 茂 郎 ②②	宮 島 茂 郎 ②②	王 丸 泰 成 ③①
眼 科	芳 賀 聡	森 雄 二 郎	芳 賀 聡
耳 鼻 い ん こ う 科	三 橋 泰 仁 ③③	坂 田 健 太 郎 ③⑨	坂 田 健 太 郎 ③⑨
放 射 線 科	浦 川 博 史 ①⑤		
救 急 ・ 総 合 診 療 科	崎 原 永 志 ③③		
麻 酔 科	若 崎 る み 枝		
病 理 部	田 邊 寛 ②②		

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）[令和 6.4.2 ～令和 6.10.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	総合周産期母子医療センター	講師	廣瀬 龍一郎	6. 5. 31	
	法 医 学	准教授	高山 みお	6. 7. 31	
	脳 神 経 内 科 学	准教授	三嶋 崇靖 ⑳	6. 9. 30	
	筑紫脳神経外科	講師	竹下 翔 ㉑	6. 9. 30	
採用	救命救急センター	講師	入江 悠平 ㉒	6.10. 1	
昇格	脳 神 経 外 科 学	准教授	竹本 光一郎 ㉓	6.10. 1	
	リハビリテーション部	准教授	藤見 幹太 ㉔	6.10. 1	
	衛生・公衆衛生学	講師	阿部 真紀子 ㉕	6.10. 1	
	脳 神 経 外 科	講師	小林 広昌 ㉖	6.10. 1	
	整形 外 科	講師	瀬尾 哉 ㉗	6.10. 1	
	整形 外 科	講師	中山 鎮秀	6.10. 1	
	整形 外 科	講師	萩尾 友宣	6.10. 1	
	腎 泌 尿 器 外 科	講師	松崎 洋吏 ㉘	6.10. 1	
	整形 外 科	講師	松永 大樹 ㉙	6.10. 1	
	整形 外 科	講師	三宅 智 ㉚	6.10. 1	
	筑紫救急・総合診療科	講師	川野 恭雅 ㉛	6.10. 1	
	整形 外 科 学	講師（4-7）	石松 哲郎 ㉜	6.10. 1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講師（4-7）	上田 雄一郎	6.10. 1	
	消 化 器 内 科	講師（4-7）	古賀 毅彦 ㉝	6.10. 1	
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	講師（4-7）	牟田 芳実 ㉞	6.10. 1		

訃報

正会員	川畑 悦男 先生	令和6年 6月19日	ご逝去（4回生）
正会員	岡本 育 先生	令和6年 8月25日	ご逝去（13回生）

編 集 後 記

縁起が良いとされる 77 回目の発行となりました。今回も会報発行にあたり、多くの方々のご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今号では、27 回生が幹事を務めた総会の報告や、各分野でご活躍される先生方の貴重なご寄稿、若手医師や学生の表彰、活動報告を掲載いたしました。多くの方にご覧いただき、皆様の心に少しでも響くものがあれば幸いです。

医学は日々進歩しており、私たちが学びを止めず、医療の質向上に努めることの重要性を改めて感じさせられます。また、福岡大学内外はもとより、海外で活躍する同窓生の姿を知る機会にもなったのではないのでしょうか。会報を通じて皆様の交流が深まる一助となることを目指しております。今後も福岡大学医学部同窓生の輝かしい未来のため、烏帽子会はさまざまな事業を通じて貢献してまいります。

最後になりましたが、発刊にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。次号もさらに充実した内容をお届けできるよう、編集を進めてまいります。

広報担当理事 安野 哲彦（24 回生）

烏帽子会の主な事業

福岡大学医学部同窓会烏帽子会は、会員の親睦・連携・信頼を紡ぐことを目的とし、福岡大学医学部の発展に貢献するため下記の事業を行っています。

①会報の発行

年に2回発行しており、会員と学生会員保護者、各医局、他学同窓会、医学部、病院、本学の役職者へ無料にてお届けしています。

②総会の開催

担当学年の特色を出した総会を開催しています。

③支部活動援助

支部総会に学内の同窓生を講師として招聘された場合援助費を支給しています。

支部にて年会費を徴収された場合、通信活動費用として正会員1人2,000円、準会員1人1,000円交付しています。

④研究奨励賞

正会員及び準会員で、会費を完納している40才未満の者又は医学科卒業後10年未満の者に、研究計画並びに研究成果に対し研究奨励賞を授与しています。

⑤在外研修援助

正会員、準会員で会費を完納している者、留学の目的が医学の研究または医療技術の習得であり、且つその期間が3ヶ月以上である事を条件に援助を行っています。

学生会員にも規定に沿って援助しています。

⑥学生会員支援

新入生、M4への激励会、新5年生の成績優秀者の表彰を実施しています。

⑦白衣贈与

1年生(ケーシー型)、5年生で使用する臨床実習用の白衣2着(長着とケーシー型または半袖)を贈与しています。

⑧国試対策

開催されるセミナーへの協力、試験中のケア、国試当日に利用出来る品を入れた、応援袋作成の協力をしています。

⑨支部総会援助

支部総会に理事が出席する場合は祝儀をお届けしています。

⑩学生行事援助

学生会員が、対外試合または活動において優勝或いは優秀な成績を取めた場合、その団体または個人に対し、その栄誉を讃え賞状、賞金または賞品を授与して表彰しています。学生会・医学祭運営に関する相談、及び、監査を行っています。

⑪学会寄付

同窓会員(正会員、準会員、特別会員)が学会を開催するにあたり申請があった場合、理事会にて学会の規模等を検討し寄付を行っています。特別会員からの申請にも対応しています。

⑫慶弔贈与

同窓会会員の慶弔に対し、規定に基づき電報、祝儀、弔慰金をお届けしています。

⑬グッズ作製

ネクタイ、スカーフ、Tシャツ、白衣の作製をしています。

⑭会員名簿発行

4年毎に名簿を発行し、会員には無料にてお届けしています。

⑮パニックマニュアル発行

5年毎に作製し、会員に無料にてお届けしています。会員が執筆を行い、研修医を対象として作製しています。卒業生には名簿とパニックマニュアルを同窓会よりの卒業祝いとしています。

⑯奨学金貸与

福岡大学医学部医学科学生(主に上学年)で学業成績優秀、品行方正、身体強健なるも経済負担能力に乏しい者に対し、奨学金を貸与し、優秀な学生の育成に寄与する事を目的として実施しています。

⑰保険コンサルティング

シンフォニアと提携し、学生会員、正会員へ保険のご案内、弁護士、社労士等の紹介をしています。

⑱ホームページ

ホームページをリニューアルし、会員へ情報提供をしています。

⑲大学院生への援助

基礎系及び臨床系大学院の入学金の援助を行っています。



春

Spring



夏

Summer



秋

Autumn

烏帽子会会報第77号

発行日 令和6年12月1日
発行人 小玉 正太
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail: maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901